

板橋区緑の基本計画

**いたばしグリーンプラン 2035（素案）**

**いたばしグリーンプラン 2035 第 1 期実施計画**

令和 7 年 8 月



はじめに



区長の挨拶文が入ります  
(原案時点でお示しします)

## 目 次

### 第1章 いたばしグリーンプラン 2035 の基本的事項

- 1 緑の基本計画とは ..... 2
- 2 “緑”と“みどり”の定義 ..... 2
- 3 計画の位置づけ ..... 3
- 4 計画期間 ..... 3
- 5 本計画の構成と読み方 ..... 4

### 第2章 板橋区を知る

- 1 板橋区の地形、みどり、水の骨格軸 ..... 6
- 2 板橋区の魅力・つよみ ..... 7
- 3 板橋区の地域ごとのみどりの特徴 ..... 14

### 第3章 これまでの振り返りと課題

- 1 みどりに関わる社会状況の変化 ..... 19
- 2 国や都の動向 ..... 22
- 3 板橋区の“みどり”に関する新たな潮流・変化 ..... 28
- 4 前計画の進捗状況と課題の整理 ..... 31

### 第4章 いたばしグリーンプラン 2035 の計画目標と実施方針

- 1 計画改定のポイント ..... 42
- 2 めざす将来像と基本方針 ..... 49
- 3 計画の目標 ..... 60
- 4 施策展開の共通視点 ..... 65
- 5 実施方針 ..... 68
- 6 プランの推進と進行管理 ..... 75

### 第5章 いたばしパークマネジメント

- 1 はじめに ..... 78
- 2 パークマネジメントの基本理念 ..... 81
- 3 パークマネジメントの目標と実施方針 ..... 82
- 4 公園種別ごとのマネジメントの方針 ..... 84

### 第6章 いたばしグリーンプラン 2035 第1期実施計画

- 1 第1期実施計画について ..... 96
- 2 実施する施策 ..... 98

※今後の策定状況に伴い、目次内容を修正する場合があります



## 第 1 章



# いたばしグリーンプラン 2035 の 基本的事項

- 1 緑の基本計画とは
- 2 “緑”と“みどり”の定義
- 3 計画の位置づけ
- 4 計画期間
- 5 本計画の構成と読み方

# 1

## 緑の基本計画とは

都市緑地法に定められている「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」であり、緑地を守り、緑を増やす目標、方針、施策や、都市公園の整備、管理の方針などを定める基本計画です。板橋区の場合は、計画の愛称を「いたばしグリーンプラン」としています。

都市緑地法では、「緑の基本計画」に以下の項目を規定することとしています。

緑の基本計画で規定するもの ※都市緑地法第4条より

みどりに関する板橋区の目標

みどりを“守る”ための方針

緑化推進のための方針

公園や緑地の整備・管理に関する方針

# 2

## “緑”と“みどり”の定義

本計画では“緑”と“みどり”を使い分けています。

- 緑 = 樹林や樹木など植物としての“緑”
- みどり = 植物としての緑のほか、公園・緑地などのオープンスペース、そこで生まれる交流の空間、農のみどり、河川の水辺や湧水、鳥や昆虫などの自然要素を含む、広い意味での“みどり”

そのうち、本計画で対象とするのは広い意味での“みどり”です。



樹林や樹木など植物



公園などのオープンスペース



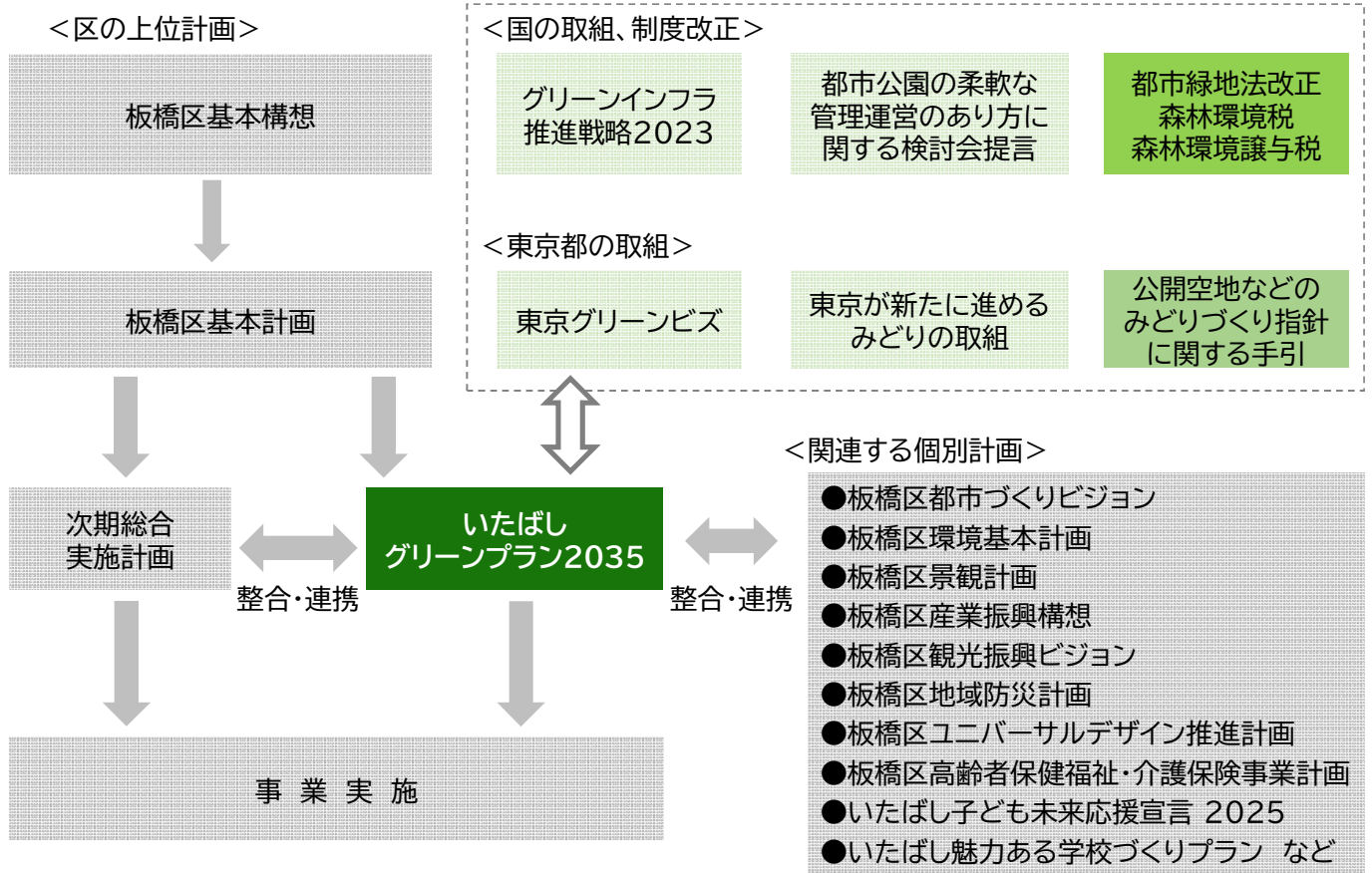
河川の水辺や鳥などの自然要素



農のみどり

### 3 計画の位置づけ

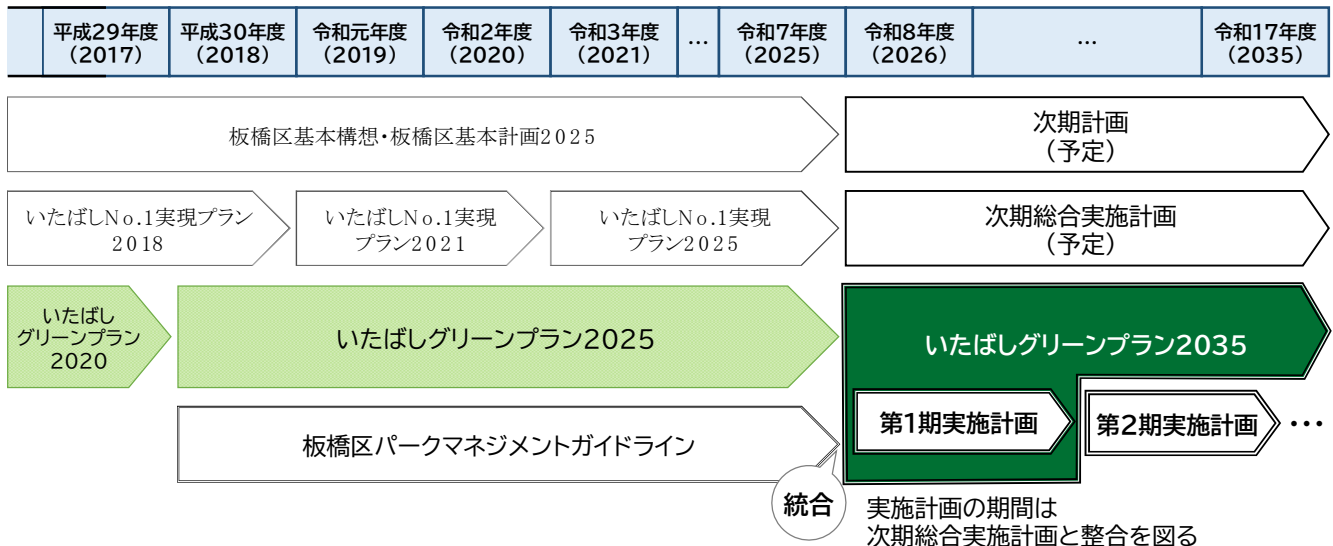
いたばしグリーンプラン 2035 は、板橋区基本構想、板橋区基本計画及び各関連計画と内容をそろえ、協力して進めます。



### 4 計画期間

次期「板橋区基本構想」や「板橋区基本計画」の計画期間と整合を図り、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間です。

各施策の実施計画は、次期総合実施計画の計画期間に合わせます。



いたばしグリーンプラン 2035 の各章の構成と役割を以下に示します。

<b>第1章</b> (この章です)	<b>いたばしグリーンプラン 2035 の基本的事項</b> 本計画が都市緑地法に基づく「緑の基本計画」であることや、計画内で用いる“みどり”と“緑”の定義など、計画の基本的な事柄を説明します。
<b>第2章</b>	<b>板橋区を知る</b> 計画の対象となる板橋区の地形やみどりの現況、そしてその魅力について解説します。
<b>第3章</b>	<b>これまでの振り返りと課題</b> これまでの計画の成果と社会状況の変化を整理し、次の10年へ向けた課題を明らかにします。
<b>第4章</b>	<b>いたばしグリーンプラン 2035</b> 本計画の最も中心となる章です。 10年後の板橋区の将来像と、その実現に向けた方針、具体的な取組の方向性を示します。
<b>第5章</b>	<b>いたばしパークマネジメントガイドライン</b> いたばしグリーンプラン 2035 の中で、特に公園の管理運営（パークマネジメント）に関する考え方や方針を詳しく説明します。
<b>第6章</b>	<b>いたばしグリーンプラン 2035 第1期実施計画</b> 10年間の計画のうち、最初の3年間で具体的に着手する事業をまとめたアクションプランです。

## 第2章



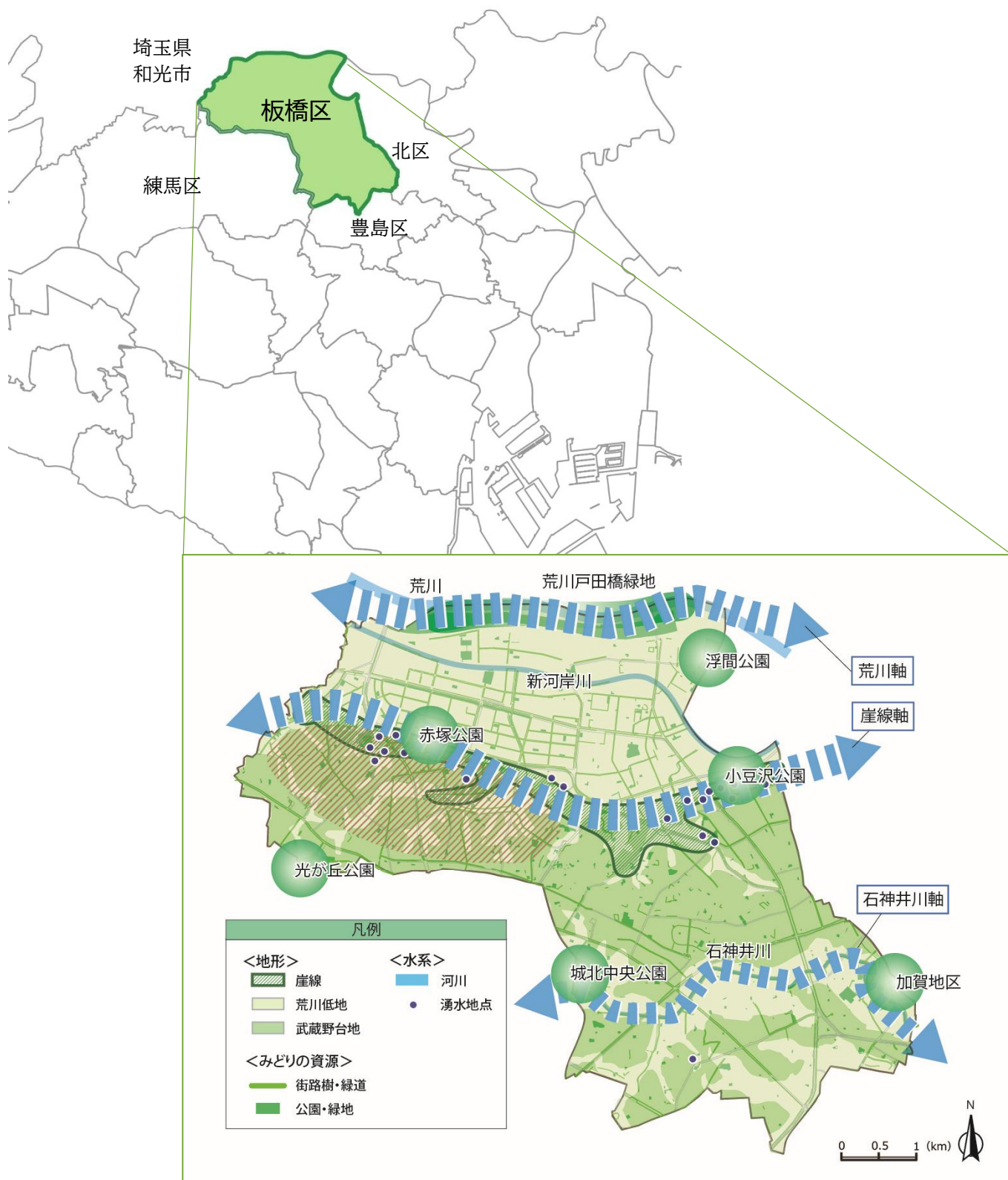
### 板橋区を知る

- 1 板橋区の地形、みどり、水の骨格軸
- 2 板橋区の魅力・つよみ
- 3 板橋区の地域ごとのみどりの特徴

## 1

## 板橋区の地形、みどり、水の骨格軸

板橋区は東京都区部の北西部に位置し、地形は、武蔵野台地と荒川低地によって構成されています。その境目には、北区へと続く板橋崖線（崖地）が連なり、みどりの骨格を形成しているほか、荒川が周辺区市（北区・和光市など）へと続く水の骨格軸を形成しています。



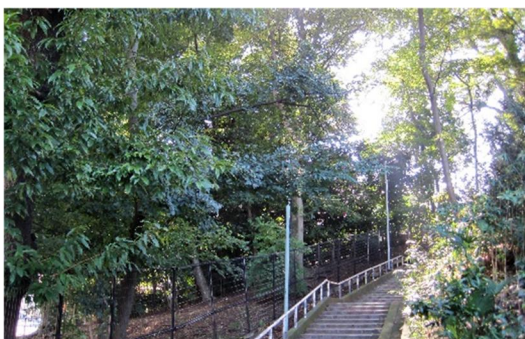


## 2 板橋区の魅力・つよみ

崖線（がいせん）の緑や荒川の水と緑、農地の緑など、板橋区には未来へ引き継ぐべき貴重な“みどり”の資産がたくさんあります。板橋区内に残る貴重な“みどり”を、区民共有の財産として大切に守り、支えていくこと、そして次の世代を担う子どもたちに郷土の“みどり”の価値を伝えていくこと、そのことによって板橋区の“みどり”がさらに豊かな“みどり”の資産となって未来の世代へと引き継がれていきます。

### (1) 自然・地形・公園

#### 崖線（がいせん）の緑



板橋区の崖線（がいせん）は、武蔵野台地と荒川低地の境界に位置する急斜面で、高低差約 20 メートルの地形的特徴を持っています。

この特徴を皆さんに知ってもらうためのガイドツアーを区民ボランティアと板橋区職員の手で行っています。

また、「板橋区地下水及び湧水を保全する条例」を制定し、この地形が生み出す地下水や湧水を保全し、活用しています。

#### 河川の水と緑



区の河川のうち、みどり、水の骨格軸として位置づけた荒川と石神井川は板橋区を流れる一級河川であり、区の重要な水と緑の軸となっています。

なかでも荒川は、都市化された板橋区における貴重な空間であり、自然に触れ合える場、レクリエーションを楽しむ場、震災時の避難場所としての場など、新たな価値を生み出す大きな可能性を秘めています。板橋区は、この魅力的な荒川河川敷の価値を最大限に引き出し、板橋区のブランドとして創造・発信することで、交流人口の増加やにぎわいの創出をめざします。

#### 農地の緑



板橋区には、多くの農地が残っており、都市部における貴重な緑地空間として機能しています。

農地と緑を守るために、板橋区では農業振興に努めると共に、皆さんが農に触れていただき、農の魅力を伝えるため、区民農園・農業体験農園の開設や農業まつりなどの都市農業振興イベントなどを行っています。

## みどりの資産

### 五本けやき（区の景観重要樹木）



昭和初期の川越街道の拡幅工事の際、当時の上板橋村村長であった飯島彌十郎が、屋敷林の一部のけやきを残すことを条件に土地を提供しました。

こうして残された屋敷林が「五本けやき」と呼ばれるようになりました。

川越街道の緑豊かなうるおいのある空間を創出しており、街道の良好な景観形成に寄与していることから、板橋区景観計画における「景観重要樹木」に指定しています。

### 石神井川の桜並木（板橋十景）



石神井川の両岸には桜並木を主体とした緑道が整備され、花見の頃になると、中板橋付近から加賀付近まで桜が咲き誇り、区内を代表する桜の名所となっています。

ソメイヨシノを中心にヤマザクラ・オオシマザクラなどを楽しむことができます。

### 高島平団地とけやき並木（板橋十景）



昭和 40 年代に相次いでマンモス団地が建設されたこの付近も、現在は周囲の樹々と融合した落ち着いた独自の顔を持つようになってきました。

特に団地内を通るけやき並木は、都立赤塚公園前から高島平駅前まで南北に 600m程続き、新緑や紅葉の時期には、道行く人もその光景を見上げるほど見事な眺めです。



## 屋敷林などの民有地のみどり



西光院のイチヨウ  
(昭和 53 (1978) 年保存樹木に指定)

板橋区のみどりは、公園や公有地だけでなく、区民の暮らしの中に息づく民有地のみどりによっても支えられています。市街地に残る屋敷林などにおける、長い年月を経た大径木は、豊かなみどりの資源であるとともに、まちの歴史的な成り立ちを伝える貴重な文化資源です。これらのみどりはまちの景観に風格を与える地域のランドマークであり、景観の向上や生物多様性の保全に重要な役割を果たしており、地域共有の財産となっています。

板橋区では昭和 54 (1979) 年から、板橋区緑化の推進に関する条例にもとづき保存樹木等を指定しています。令和 7 (2025) 年 3 月末で区内には約 1,600 本の保存樹木、21 か所の保存樹林・竹林、47 か所の保存生垣があります。

### コラム

#### 暮らしの中の豊かなみどり ～サンシティの事例～

板橋区中台にある民間の大規模集合住宅団地であるサンシティでは、敷地面積約 12 万 5,000 m<sup>2</sup> (東京ドーム約 3 個分) の中に広大な緑地が確保されています。多様な樹木が植えられたみどり豊かなオープンスペースは、住民の憩いの場であると同時に、地域の貴重なみどりの拠点となっています。

敷地内のみどりは、サンシティグリーンボランティアが、人と自然の共生、自然性の高い環境作りをめざし、剪定など雑木林 5 万本の植栽と森のケアを行っています。

敷地内の樹林は昭和 63 (1988) 年に保存樹林に、また、樹齢 250 年以上と云われる御神木 (スダジイ) は、平成 8 (1996) 年に保存樹木に指定されました。

こうした民間の取組も、板橋区のみどりの豊かさを支える重要な要素となっています。



サンシティ内の保存樹木 (スダジイ)



サンシティ内の保存樹林

資料) サンシティ概要 ( <https://www.suncity.jp/outline> )

## 公園

### 板橋区の都市公園(都立公園含む) (令和7(2025)年4月現在)



公園数

346 箇所



公園の面積

189.8 ha

区全体に  
対する割合

5.89 % (23 区中4位)

#### ◆区内の特徴ある公園



東板橋公園（板橋こども動物園）



小豆沢公園（あずさわスポーツフィールド）



赤塚植物園



見次公園

園内にこども動物園がある東板橋公園や徳丸ヶ原公園、身近な里山の樹木、園芸種、農産種、野草など、600種類を超える植物が育ち、四季折々の姿を楽しめる赤塚植物園など特徴ある公園が数多くあります。



## (2) 生まれ変わる公園とまち

### 公園

板橋公園では、モビリティコミュニケーション（移動や物流など、人々の生活を支えているモビリティによる人のつながりや交流）の可能性を最大限追求し、展開していくことにより、人とまちとみどりが結ばれ、だれもが快適で安全に利用し、多様な楽しみ方ができる公園を実現していきます。



板橋公園の鳥瞰図

板橋区加賀一丁目に所在する「史跡陸軍板橋火薬製造所跡」を整備し、当時の遺構や建造物を含めて公開を行う「板橋区史跡公園（仮称）」の整備を令和11（2029）年度のグランドオープンをめざして進めています。



板橋区史跡公園（仮）の鳥瞰図

### 再開発などのまちづくりによる新たなみどりの創出への期待

大山、板橋、上板橋、高島平地域など各地域の駅周辺では、まちづくり事業が進んでおり、これらを契機として、創出される新たなみどりは、豊かさや愛着をはぐくむみどりとして期待されます。

上板橋駅南口では、駅前広場や都市計画道路の整備とともに、みどり豊かな屋外空間（パブリックスペース）を公民一体となって形成するまちづくりが期待されています。



上板橋駅南口のイメージパース

高島平緑地では、社会実験を通じて、地域住民や事業者、市民団体の発想や創造性を取り入れた再整備が計画されています。農機能の導入など、新たな視点での緑地空間の創出が期待されています。



現在の高島平緑地

### (3) みどりに関わる区民との協働

#### 区立エコポリスセンター、区立熱帯環境植物館でのみどりに関する協働の取組

区立エコポリスセンターではかんきょう観察事業として区内の動植物調査、自然観察会の開催、自主的な環境調査活動への支援などを通じて、環境について区民が自ら学ぶ機会を提供しています。

また、区立熱帯環境植物館では小学3年生を対象として、館の周辺で花苗の植え付けや、種まき、花壇のデザイン・整備など、季節に合わせた活動を行うキッズガーデナーを年に10回ほどを行っています。活動を終了した方は、次年度からサポーターとして活動に参加していただいています。

さらに、サポーターの活動を終えた中高生を対象に、施設外観の花壇の整備活動を行います。その他にも、熱帯環境植物館で行われるイベントの手伝いやお仕事のサポーターとしての活動も行う、ねったいかんクラブの取組を行っています。



区立エコポリスセンターのかんきょう観察事業



区立熱帯環境植物館のキッズガーデナー

#### 地域がつくる公園制度

地域がつくる公園制度は、地域の共有財産である身近な公園を、地域の方々で見守っていただく制度です。地域の方々のグループによる公園清掃やみどりの手入れなどの作業に対して、清掃用具などの必要経費相当を支援しています。

板橋区と地域の方々との間でお互いの役割を決め、一緒に公園を管理しており、令和6(2024)年12月末時点で27公園、26グループが活動しています。

#### 花づくりボランティア活動

駅前広場や公園、街角などで花壇の設計・管理を行う花づくりグループが区内各地で活動しています。季節に応じた植替えや日常的な手入れを通じて、まちの景観向上に貢献するとともに、活動を通じた地域コミュニティの形成にも寄与しています。

令和6(2024)年12月末時点で80公園、83グループが活動しています。




四ツ又公園の花づくりボランティア



## こども動物園の取組

東板橋公園にある板橋こども動物園は昭和 50（1975）年に、徳丸ヶ原公園にあるこども動物園高島平分園は昭和 54 年に開設しました。令和 2（2020）年 6 月からはそれぞれの公園で指定管理者制度を導入しました。「みんなでつくる人をつなぐ公園」をめざし、協働の取組を行っています。

協働の種類	協働の内容
こども動物クラブ	<p>平成 21（2009）年から開始した登録制の事業です。小学 3 年生から中学 3 年生までの年齢の異なる子ども達が、放課後や休日など好きな時間に動物園に来て、動物の世話や接客などを行っています。</p> <p>活動を通じて命の大切さや助け合い、思いやりなどを学ぶ場となっているとともに、家庭や学校以外の子ども達の第 3 の居場所にもなっています。また、近隣の商店街に話を聞きに行き地域マップを作成するなど、動物園の外にも活動を広げています。</p> <div data-bbox="646 875 1324 1122">  </div> <p>令和 6（2024）年度登録者数：約 180 人/月</p>
民間のイベントの受入れ	<p>ZOOパークフェスタのイベントでは、民間の方からの提案により、子ども向けのロボットプログラミング教室やリトミック教室のイベントを、指定管理者の事業の中で一緒に行いました。また、近隣大学の学生によるオリジナル動物図鑑づくりのブース出展を行ったほか、板橋警察署による交通安全コーナーの設置と白バイとの記念撮影会を行いました。</p>

赤塚植物園、赤塚支所における協働の取組を記載予定

板橋区では、公園や緑地での清掃活動、花壇の管理、環境保全活動など、住民主体の緑化活動が活発に行われています。

現在は、それぞれの活動が個別に行われているため、これらをサイクルとしてつなげることで、より効果的な活動に取り組む必要があります。



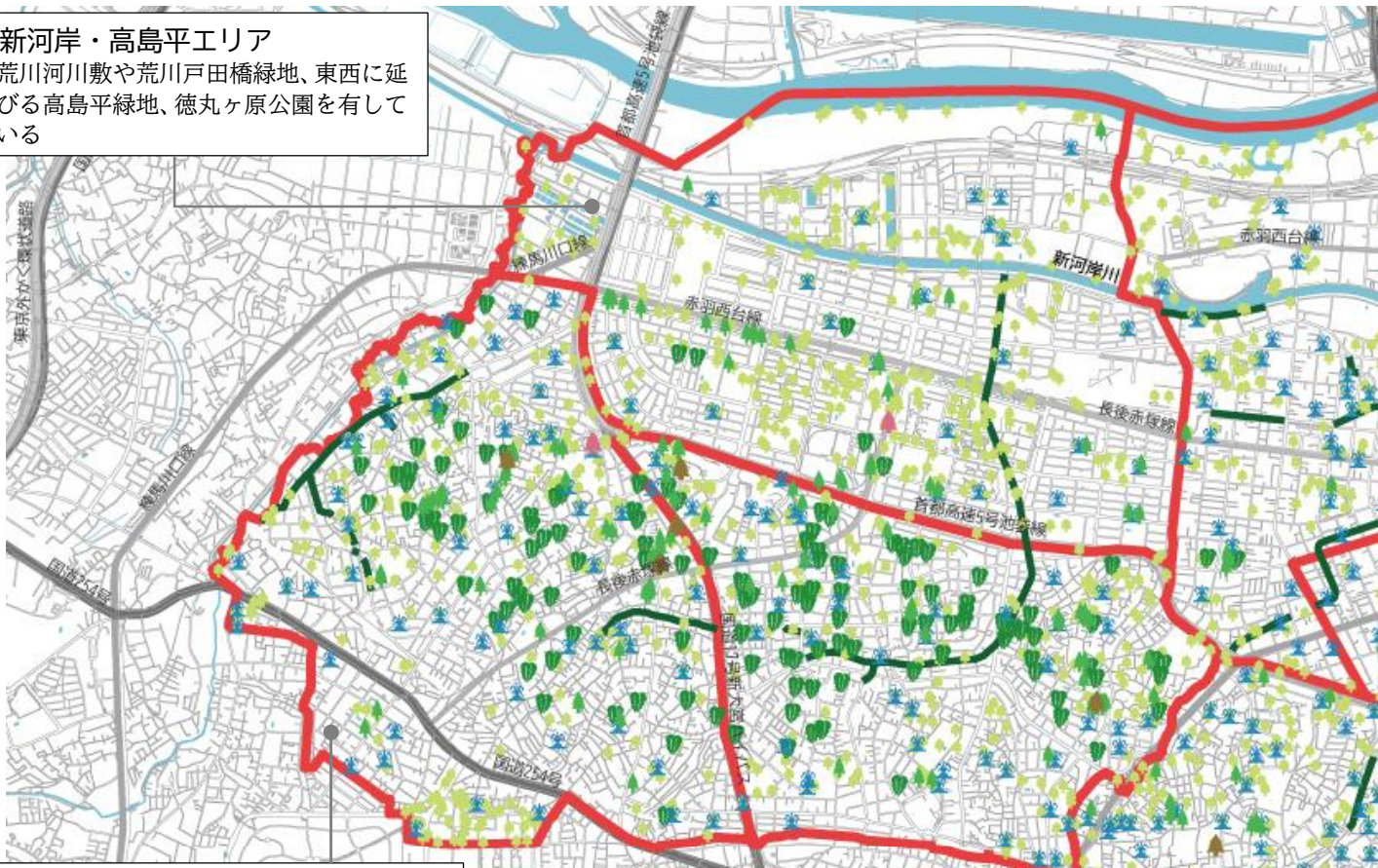
### 3

## 板橋区の地域ごとのみどりの特徴

それぞれの地域ごとの主な“みどり”の特徴は以下のとおりです。

#### ⑦新河岸・高島平エリア

○荒川河川敷や荒川戸田橋緑地、東西に延びる高島平緑地、徳丸ヶ原公園を有している



#### ⑥赤塚・成増エリア

○赤塚城址や不動の滝、屋敷林や農地からなる武蔵野の原風景をとどめ、崖線沿いにはまとまった緑と湧水を有している

#### ⑤徳丸・西台エリア

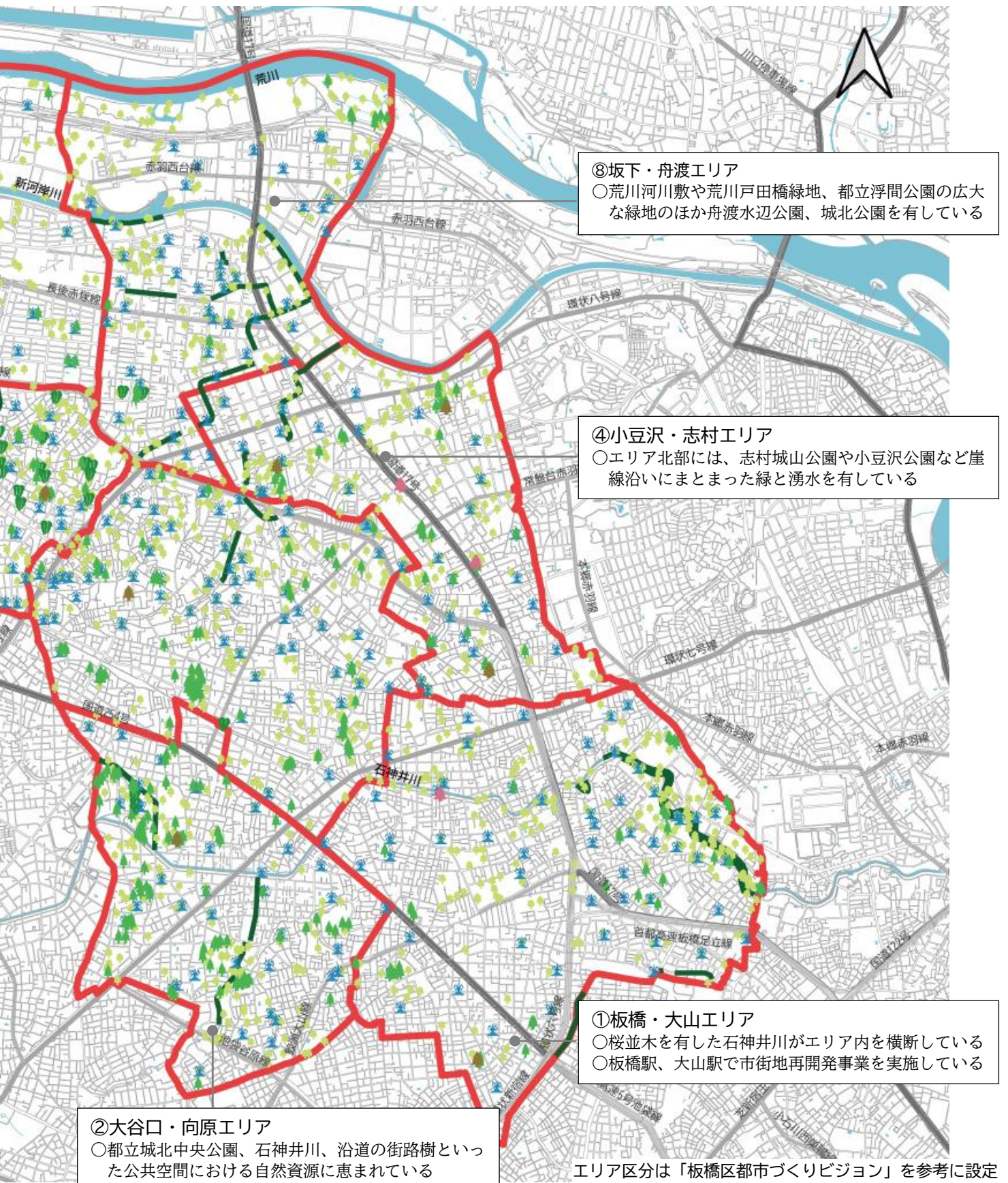
○区内で農地が最も残り、エリア北部には貴重な湧水と都立赤塚公園をはじめとした崖線のみどりを有している

#### ③上板橋・常盤台エリア

○平和公園や見次公園がみどりの拠点となっているほか、常盤台エリアは、沿道には街路樹が整備されるなど自然資源に恵まれている











## 第3章



### これまでの振り返りと課題

- 1 みどりに関わる社会状況の変化
- 2 国や都の動向
- 3 板橋区の“みどり”に関する新たな潮流・変化
- 4 前計画の進捗状況と課題の整理

# 1

## みどりに関わる社会状況の変化

以下の6つの社会状況の変化に対して、みどりの持つ効果を活用していくことに注目が集まっています。

### (1) ウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に幸せな状態であること）の希求

国は、「健康日本 21（第三次）」において、自ら健康づくりに積極的に取り組む者だけでなく、健康に関心の薄い者でも、本人が無理なく自然に健康行動をとれる環境づくりを推進しています。

みどりと関わりたいと自然に思えるような、きれいな街路樹や安らげる公園、みどり豊かな駅周辺の広場の整備、ここでのイベントの実施など、魅力的なみどりを通した、みどりととの関係創出は、ウェルビーイング（幸福度）が示す、地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態につながります。



#### ◆ウェルビーイングのイメージ

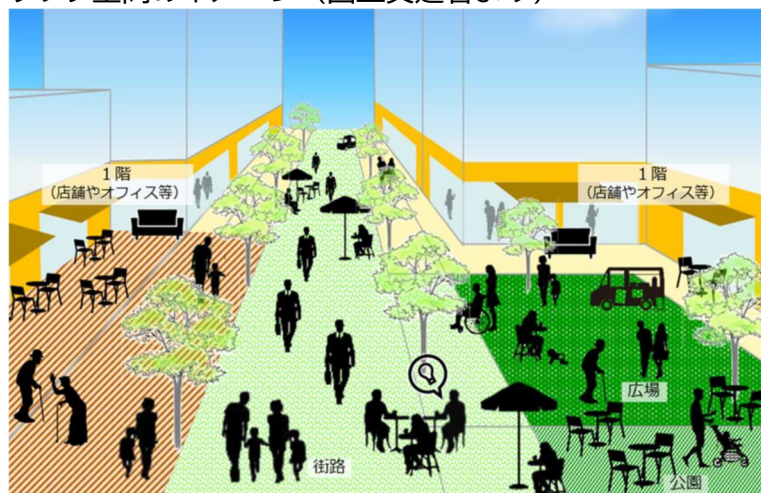


### (2) アクティビティ創出（にぎわい空間を創出すること）への期待増大

国は、「居心地が良く歩きたくなる」空間づくり、魅力的なまちづくりを推進しています。

居心地が良く、行きたくなるオープンスペースなどの“場所”の形成に加え、花植え、植樹、農作業体験、レクリエーションイベントなどみどりに触れる機会により、人が集う“空間”を設けることで、にぎわいの創出が期待されます。

#### ◆ウォーカブルなパブリック空間のイメージ（国土交通省より）



### (3) ネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を食い止め、自然の回復を図り、改善すること）の提唱

生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せることを意味する「ネイチャーポジティブ」という考え方が、世界的な目標となっています。

この実現に向け、国内では令和5（2023）年6月に「生物多様性国家戦略 2023-2030」が改定され、令和6（2024）年4月には「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」（通称：地域生物多様性増進法）が施行されました。この法律では、企業の森や里地里山、都市の緑地など、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている土地を国が認定する「自然共生サイト」の仕組みが始まっています。



#### ◆生物多様性のイメージ

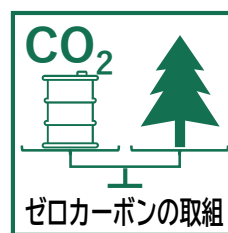


資料：令和5年 いたばし・いきものアルバム(春)より

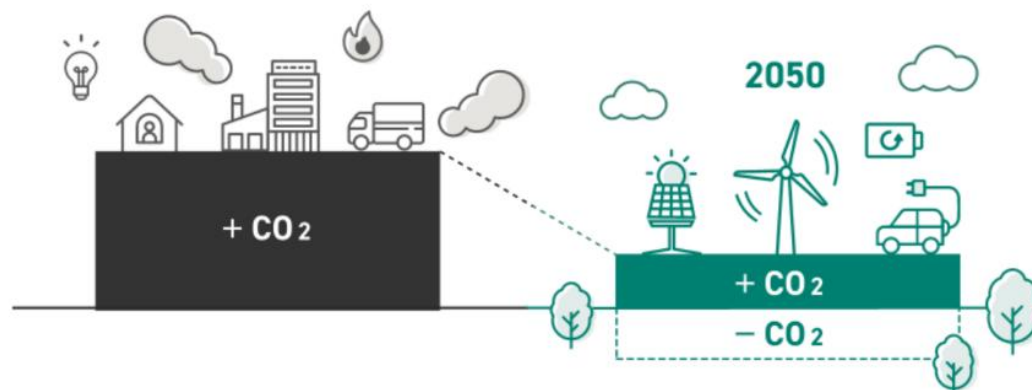
### (4) ゼロカーボン（二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすこと）に向けた取組強化

令和7（2025）年2月に国の「地球温暖化対策計画」が改定され、令和32（2050）年のカーボンニュートラルに向けた基本的な考えと令和17（2035）年度と令和22（2040）年度の温室効果ガス削減目標を示しました。

緑は、光合成により大気中のCO<sub>2</sub>を固定するとともに、固定した炭素を再び大気中に放出しない、という特徴があります。この特徴を活かすことで、ゼロカーボンの実現に寄与します。



#### ◆カーボンニュートラルのイメージ（脱炭素ポータル（環境省）より）



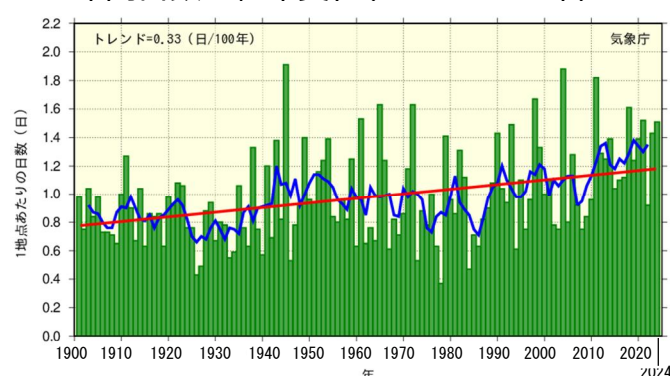
## (5) 豪雨災害の激甚化・頻発化

全国的に豪雨災害の激甚化・頻発化が問題視されており、板橋区内でも局地的な短時間の集中豪雨などによる浸水被害が発生しています。今後も気候変動の影響は続く見込みで、浸水対策が求められます。

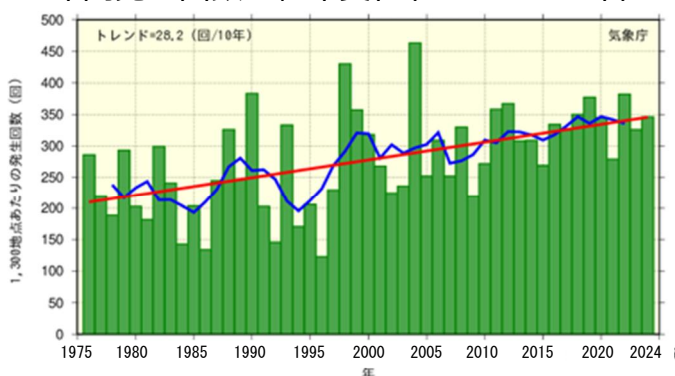
このような中、樹林や草地、農地などのみどりは保水力があることから、豪雨の際に雨水を一時貯留することで、下水道への流入抑制や、浸水深の低減といった効果をもたらしてくれます。



日降水量 200 mm以上の大雨の  
年間日数の経年変化(1901～2024 年)



1 時間降水量 50 mm以上の短時間強雨の  
年間発生回数の経年変化(1976～2024 年)



資料：「日本の気候変動 2025 - 大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書 -」（文部科学省・気象庁）より

### ◆樹林や草地、農地などによる雨水の一時貯留のイメージ



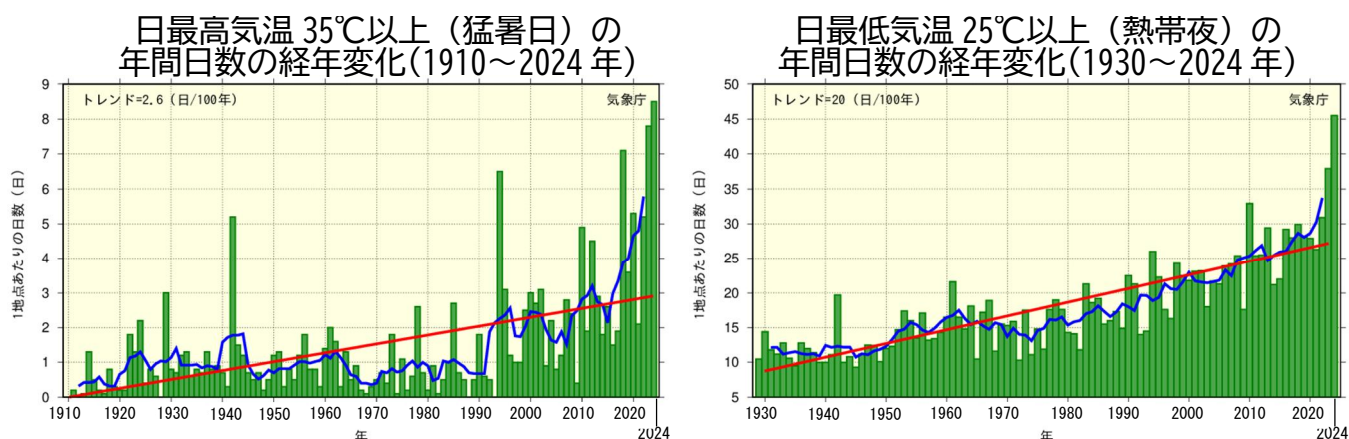


## (6) ヒートアイランド現象（都市部が周辺の郊外よりも気温が高くなる現象）の激化

気候変動の影響で日本の気温は上昇傾向にあり、猛暑日の日数が増加するなど、その気候は亜熱帯化ともいえる状況です。今後も平均気温の上昇と極端な高温の頻度の増加が予測されています。また、熱中症により救急搬送される人も総務省が調査を開始した平成 20（2008）年以来、増加傾向にあり、令和 6（2024）年は全国で過去最高の 97,578 人が搬送されました。

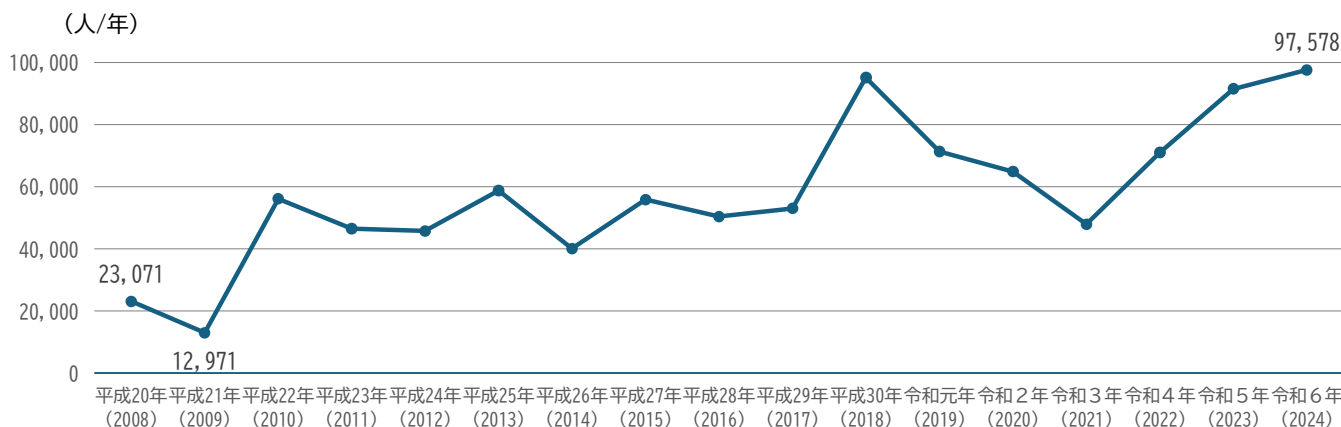


そんな中、みどりによる遮熱や蒸発散で、ヒートアイランド現象の緩和につながることを期待されます。緑陰によって日射の低減が可能であるとともに、地表面や壁面などの緑化により、温度上昇が抑制でき、熱ストレスの軽減につながります。



資料：「日本の気候変動 2025 - 大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書 -」（文部科学省・気象庁）より

### 熱中症による救急搬送人員数の推移（全国）



資料：総務省消防庁報道発表資料より作成

## コラム

### 板橋こども動物園の草屋根

東板橋公園内の板橋こども動物園は、令和 2（2020）年の改修に合わせて草屋根や壁面緑化による環境負荷軽減への取組を行っています。草屋根を設置することにより、室温を一定に保つことができ冷暖房機器の使用を抑制できます。



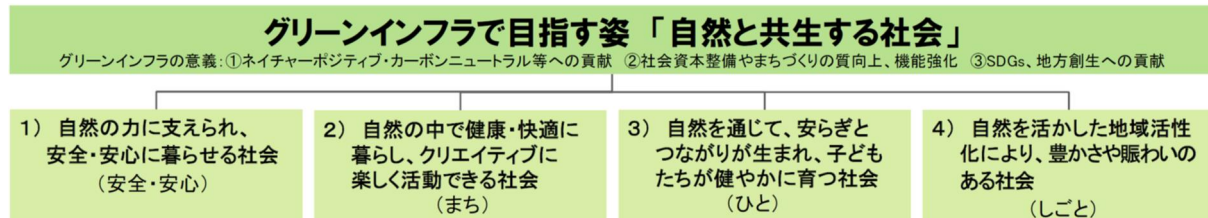
## (1) 国の主な取組

## グリーンインフラ推進戦略 2023 の策定（令和5（2023）年9月）

自然の力を活かした、より良い社会づくりを全国で進める計画です

国は以前から、自然が持つ様々な力をまちづくりや土地の利用に活かす「グリーンインフラ推進戦略」を進めてきました。近年では、その取組を加速させるため、PPP／PFI手法（公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法）の活用など、民間の力を積極的に活かしていく方針が示されており、公民が連携した持続可能な国土・都市づくりが求められています。

## ◆国が示す、これからのグリーンインフラの進め方（グリーンインフラ推進戦略 2023 の概要）



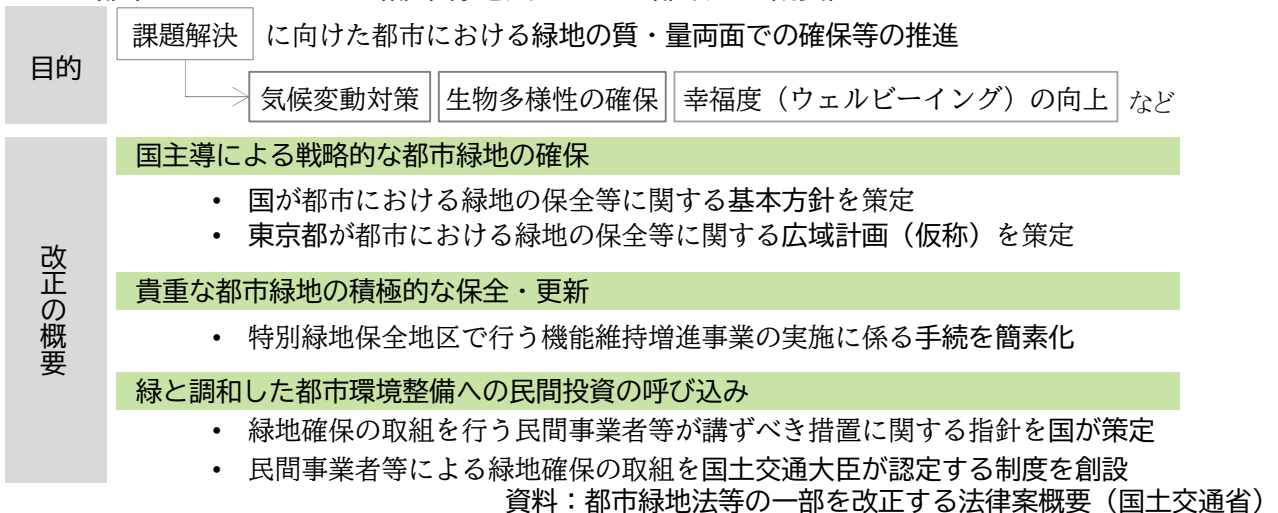
資料：グリーンインフラ推進戦略 2023 概要版（国土交通省）

## 都市緑地法などの一部改正（令和6（2024）年11月施行）

まちづくりGXを推進し、まちのみどりを守り、質も高めるための法律の変更です

近年の気候変動対策や生物多様性の確保、ウェルビーイング（幸福度）の向上といった課題解決に向け、国土交通省が推進する「まちづくりGX（グリーン・トランスフォーメーション）」の取組の一環として、都市における緑地の質・量両面での確保などを推し進めるために、都市緑地法などの一部が改正されました。

## ◆これからの都市のみどりづくり（都市緑地法などの一部改正の概要）



## 森林環境税及び森林環境譲与税の創設

森林を守り育てるためのお金を、みんなで支え合う新しい仕組みです

所有者や境界が分からない森林の増加、担い手の不足などが日本社会において大きな課題となっているほか、温室効果ガス排出削減目標の達成（パリ協定）や災害防止などを図るための森林整備などに必要な地方財源を安定的に確保していくことが重要であることから、森林環境税及び森林環境譲与税が創設されました。

◆森林を守るための新しい税金と、その使いみち（森林環境税及び森林環境譲与税の概要）



資料：林野庁HP

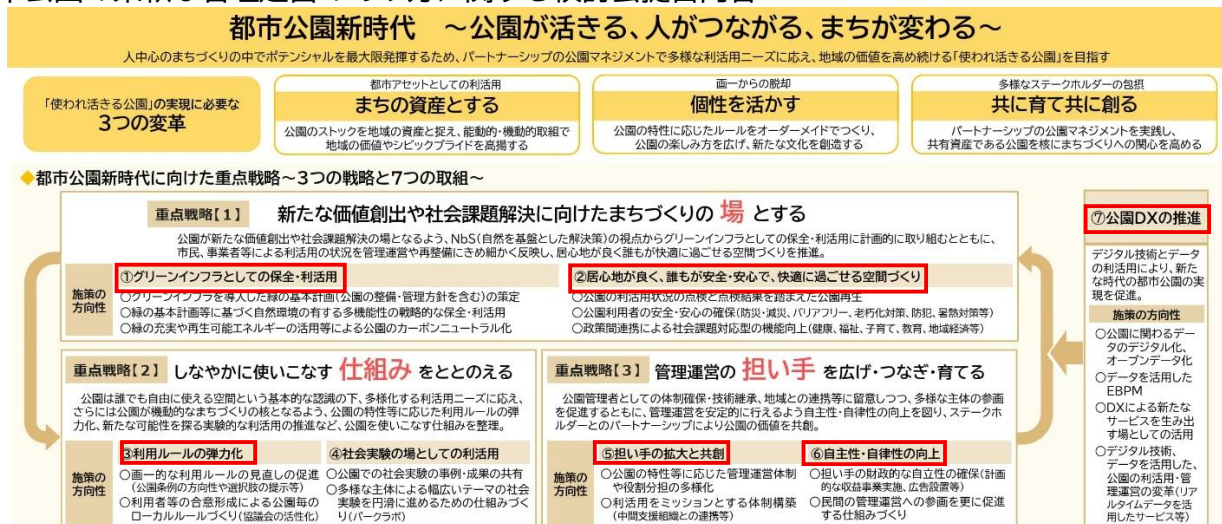
## 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言 （令和4（2022）年10月）

公園をもっと楽しく、みんなで使いこなせるようにするための新しい考え方です

国土交通省は、民との連携による「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言」を令和4（2022）年10月に出しました。

この提言では都市公園新時代へ向けて7つの取組をまとめています。このうち板橋区では6つの取組、①グリーンインフラとしての保全・利活用、②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり、③利用ルールの弾力化、⑤担い手の拡大と共創、⑥自主性・自律性の向上、⑦公園DXの推進、が特に重要であると捉え、今後の公園施策に活かします。

◆都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言内容



資料：国土交通省資料より



## 都市農業振興基本計画（平成 28（2016）年 5 月閣議決定）

都市農地を多様な機能を持つ貴重な緑地として保全・活用するための計画です

都市農業振興基本法と、それに基づく国の都市農業振興基本計画では、都市部の農地は食料生産の場としてだけでなく、防災空間、環境学習の場、良好な景観の提供など、多様な機能を持つ貴重な緑地として位置づけられています。その保全と、区民が農に親しむための多面的な活用が求められています。

### ◆都市農業振興基本計画の概要

基本法の 政策課題	都市農業の 多様な機能 の発揮	農産物の供給	国土・環境の保全	防災
		農作業体験・交流の場	良好な景観の形成	農業に対する理解醸成
施策の 方向性	担い手の確保	土地の確保	農業施策の本格展開	
	多様な担い手（営農・食品 関連事業、他の企業等）	計画的な保全、土地利用施 策との連携、制度のあり方	本格的な農業振興施策が講 じられるよう方針を転換	
講 ず べき 施策	農産物を供給する機能の向上並びに担い手の育成及び確保			
	防災、良好な景観の形成並びに国土及び環境の保全等の機能の発揮			
	的確な土地利用に関する計画の策定等		税制上の措置	
	農産物の地元での消費の促進		農作業を体験することができる環境の整備等	
	学校教育における農作業の体験の機会の充実等		国民の理解と関心の増進	

資料：都市農業振興基本計画（概要）（国土交通省）


## 改正都市再生特別措置法・道路法（令和 2（2020）年施行）など

道路空間を柔軟に活用し、誰もが歩いて楽しい、居心地の良いまちづくりを進める取組です

国の居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりの推進を背景に、ウォーカブルなまちづくりが全国で進められています。改正都市再生特別措置法や道路法の歩行者利便増進道路制度などを活用し、豊かで快適な歩行者空間を創出する上で、街路樹や沿道の緑化は不可欠な要素として、その重要性が高まっています。

### ◆「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出の概要

滞在快適性等向上区域と歩行者利便増進道路を併用し「居心地が良く歩きたくなる」空間を創出

滞在快適性等向上区域（都市再生特別措置法）	市区町村が作成する「都市再生整備計画」に「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりに取り組む区域（滞在快適性等向上区域）を設定し、以下の取組を推進
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 公共による道路の修復・改変と民間によるオープンスペースの提供など、官民一体による公共空間の創出が可能</li> <li>□ 区域内の特定の道路について、駐車場出入口の設置を制限することが可能</li> <li>□ イベント実施時などに NPO、まちづくり会社等の地域におけるまちづくり活動を行う法人で、市区町村が認定する都市再生推進法人が道路の占用・使用手続等を一括して対応</li> </ul>
 両者の併用が効果的	
歩行者利便増進道路（道路法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 車線を減らして歩道を拡げるなど、歩道等の中に（通行区間とは別に）歩行者の滞留・賑わい空間を整備することが可能</li> <li>□ カフェやベンチの設置など、占用制度を緩和</li> </ul>

資料：「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり～ウォーカブルなまちなかの形成～（国土交通省）



## 地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律 (生物多様性増進活動促進法、令和7(2025)年4月施行)

民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている土地を国が認定(自然共生サイト)し、その価値を保全する法律です

ネイチャーポジティブの実現に向け、企業の森や里地里山、都市の緑地など、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている土地を、国が「自然共生サイト」として認定する仕組みが始まりました。これにより、民有地の緑が持つ生物多様性保全の価値を評価し、保全していく流れが加速しています。

### ◆生物多様性増進活動促進法の概要

#### ■ 主な措置事項

##### 1. 地域における生物の多様性の増進※のための活動の促進 ※維持、回復又は創出

###### (1) 増進活動実施計画等の認定制度の創設

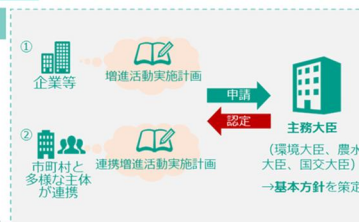
① **企業等**が、里地里山の保全、外来生物の防除、希少種の保護といった生物多様性の維持・回復・創出に資する「**増進活動実施計画**」を作成し、**主務大臣が認定**(企業等は情報開示等に活用)。

② **市町村**がとりまとめ役として地域の多様な主体と連携して行う活動を「**連携増進活動実施計画**」として主務大臣が認定。

➤ ①又は②の認定を受けた者は、その活動内容に応じて、自然公園法・自然環境保全法・種の保存法・鳥獣保護管理法・外来生物法・森林法・都市緑地法における**手続のワンストップ化・簡素化といった特例**を受けることができる。

###### (2) 生物多様性維持協定

➤ ②の認定を受けた市町村は、土地所有者等と「**生物多様性維持協定**」を締結することができ、**長期的・安定的に活動が実施**できる。



##### 2. その他

(1) (独法)環境再生保全機構法の一部改正(認定関連業務の一部や情報提供等を機構が実施)

(2) 生物多様性地域連携促進法の廃止

<施行期日> 公布の日から起算して、1年を超えない範囲で政令で定める日

豊かな生物の多様性の確保、ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現へ

資料：環境省資料より

## (2) 都の主な取組

### 東京が新たに進めるみどりの取組（令和元（2019）年5月）

東京のみどりの量を減らさず、未来へつなぐための大切な目標と4つの方針です

2040年代に向け、「都市づくりのグランドデザイン」で掲げた「東京の緑を、総量としてこれ以上減らさない」ことを目標としています。

その目標達成に向け、以下の4つの方針のもと、各種施策が示されています。

- 方針Ⅰ 拠点・骨格となるみどりを形成する
- 方針Ⅱ 将来にわたり農地を引き継ぐ
- 方針Ⅲ みどりの量的な底上げ・質の向上を図る
- 方針Ⅳ 特色あるみどりが身近にある

#### ◆東京都のみどりの取組目標

##### 緑の総量

▶ 減らさない

（現状）みどり率 50.5%（2013年）／東京都

東京の緑は、公園・緑地が増えているものの、全体としては減少傾向にあります。

今ある緑や農地を守るとともに、都市づくりの機会を捉えて美しい緑を生み出すなど、あらゆる場所で緑を感じられる都市の実現を目指しています。

資料：東京が新たに進めるみどりの取組（令和元（2019）年5月 東京都）

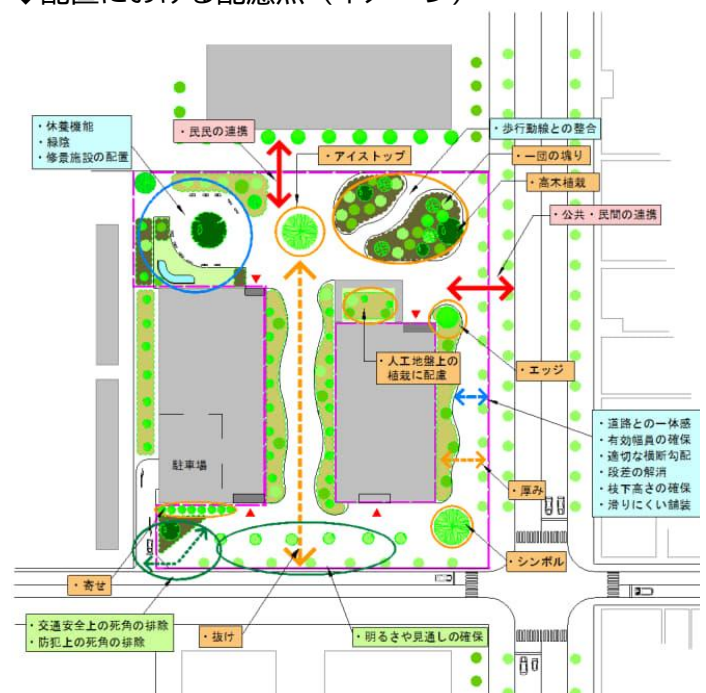
### 公開空地などのみどりづくり指針に関する手引（令和6（2024）年4月）

建物まわりのオープンスペースを、もっと豊かで使いやすい「みどり」にするための手引です

建物を建てる際に敷地内につくられる、誰でも利用できる空間（公開空地など）について、みどりの量や質を高め、みんなが気持ちよく使えるようにするための考え方や工夫（配慮事項）、緑化の具体的な方法（緑化手法のポイント）などが示されています。

令和6（2024）年4月には、もともとある樹木を大切に守り、管理していくことについての内容などが追加されました。

#### ◆配置における配慮点（イメージ）



## 東京グリーンビズ（令和6（2024）年1月）

東京のみどりを「まもり・育て・活かす」、100年先を見据えたプロジェクトです

東京グリーンビズとは、自然と調和した、将来も安心して暮らせるまち（持続可能な都市）をめざし、東京都内に住む人や会社で働く人など（都民や企業に勤める人々をはじめ）、様々な人々と一緒に、東京のみどりを「まもり」「育てる」「活かす」取組を進める、100年先を見据えたみどりの計画（プロジェクト）です。

人々の生活にゆとりやうるおいを与えてくれるみどりの価値をさらに高め、都民みんなで未来へ引き継いでいくことをめざしています。

### ◆東京のみどりを未来へつなぐ「東京グリーンビズ」の考え方



### (1) 板橋区の基本構想・基本計画

※現在改定検討中の次期基本構想の中間答申で示された内容に基づく

板橋区基本構想において、「未来をひらく 緑と文化のかがやくまち“板橋”」を将来像として掲げており、将来像が実現されたまちの姿として、「誰もが幸せを実感している」、「つながりと愛着がはぐくまれている」を示しています。

また、将来像実現に向けて、将来像を9つの視点から具体化した「9つのめざす姿」を掲げており、各視点の概ね10年後の「めざす姿」を表現しています。この「9つのめざす姿」は独立せず有機的につながり、一体となって将来像の実現をめざしていくものです。

将来像が実現されたまちの姿である「誰もが幸せを実感している」、「つながりと愛着がはぐくまれている」状態は、すべてのめざす姿に共通して表現されており、この実現には、板橋区はもとより地域に暮らすすべての人や様々な団体、関係機関など区内のあらゆる主体と連携し推進していく必要があります。

「9つのめざす姿」の実現には、板橋区の諸計画とともにグリーンプラン2035も整合・連携し取組んでいく必要があります。そのうち特に関連性が高い「みどり豊かで人と地球にやさしいまち」の実現に向けて、板橋が誇る豊かな自然環境を未来へつなぐためには、一人ひとりがあたためたいところでみどりと共存できる人と地球にやさしいまちづくりを進めることが大切です。

グリーンプラン2035では、この実現のための施策のあり方として「多様な主体が担い手となった連携・協働による環境・みどりへの取組の推進と新たな価値の創出」や「ネイチャーポジティブに向けた取組の推進」を掲げており、「“ひと”と“みどり”の共生でウェルビーイングが叶うまち“板橋”」の実現に向けた取組を推進していきます。（調整中）



## (2) 将来人口の見込み

板橋区の人口は、令和 7（2025）年 4 月 1 日現在で約 58 万人であり、近年は生産年齢人口、高齢者人口が増加している一方、年少人口は減少しており、少子高齢化が進んでいます。

「板橋区人口ビジョン」（令和 6（2024）年 9 月改定）では、令和 22（2040）年までは人口が増加し、その後、ゆるやかに減少する見込みです。このうち 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口は、5 年後の令和 12（2030）年にピークを迎え、その後、減少に転ずると見込まれています。高齢化率は、今後、増加し続け、20 年後には 27%に達する見込みです。

板橋区においても区内の人口構成の変化に伴い、税収が減少する可能性があることから、公園内の遊具やトイレなどの施設の適切な規模・配置や、維持管理費用の縮減を今後検討する必要があります。

### 板橋区の人口・世帯（令和 7(2025)年 4 月現在）



世帯数

337,372 世帯



人 口

580,912 人



14 歳以下人口

57,191 人



65 歳以上人口  
(高齢人口)

131,456 人

資料：板橋区住民基本台帳（令和 7（2025）年 4 月）

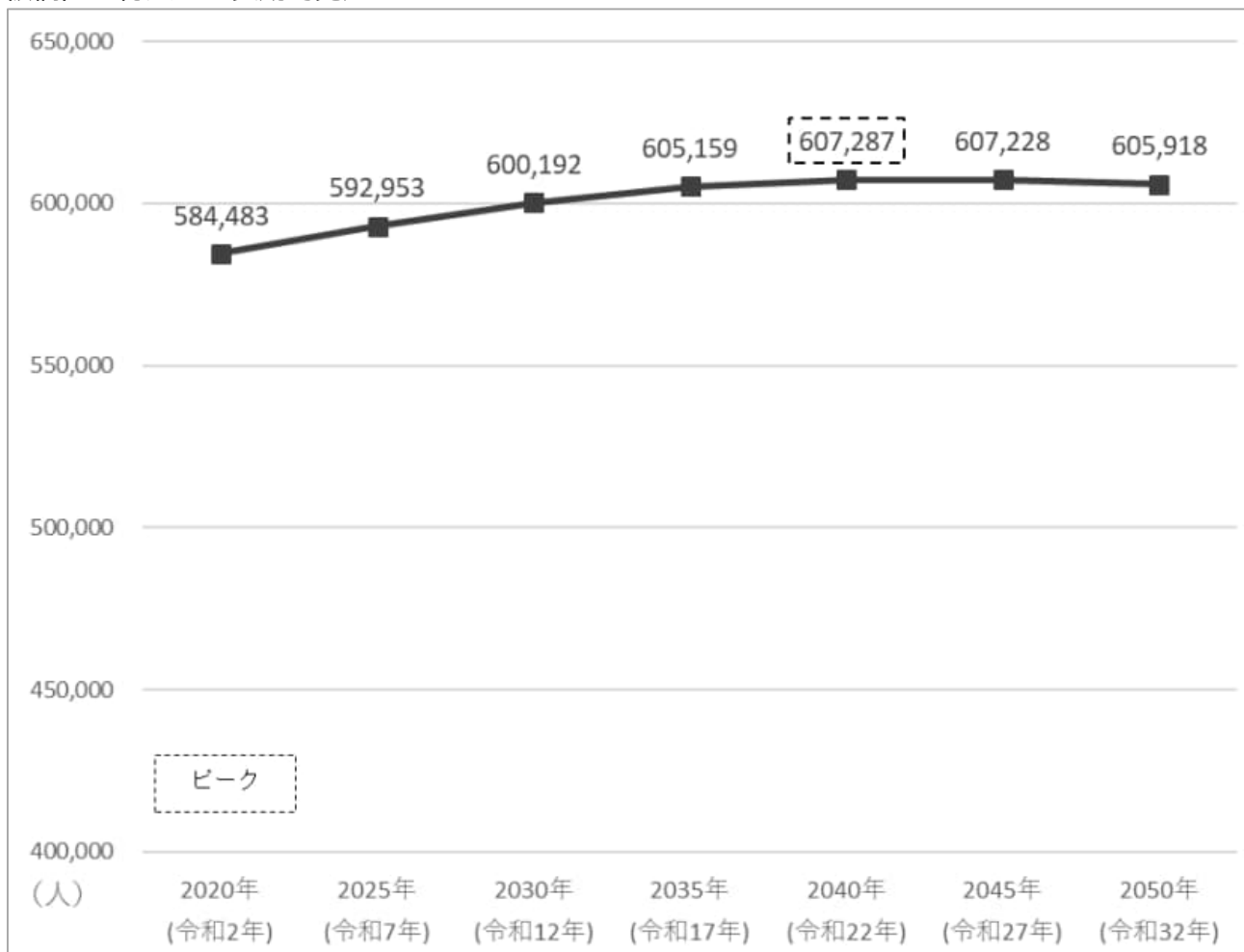
### 板橋区の 10 年後・20 年後の人口

	現況 (令和 7 年)	10 年後 (令和 17 年)	15 年後 (令和 22 年)	20 年後 (令和 27 年)
人口	592,953※人	605,159 人	607,287 人 (最大)	607,228 人
生産年齢人口	397,073※人	394,571 人	384,735 人 (現況から減少)	378,829 人 (現況から減少)
65 歳以上 高齢人口	135,780※人	148,169 人	159,570 人	166,139 人

※令和 2（2020）年国勢調査結果を元に推計した人口であるため、住民基本台帳の人口とは異なります。

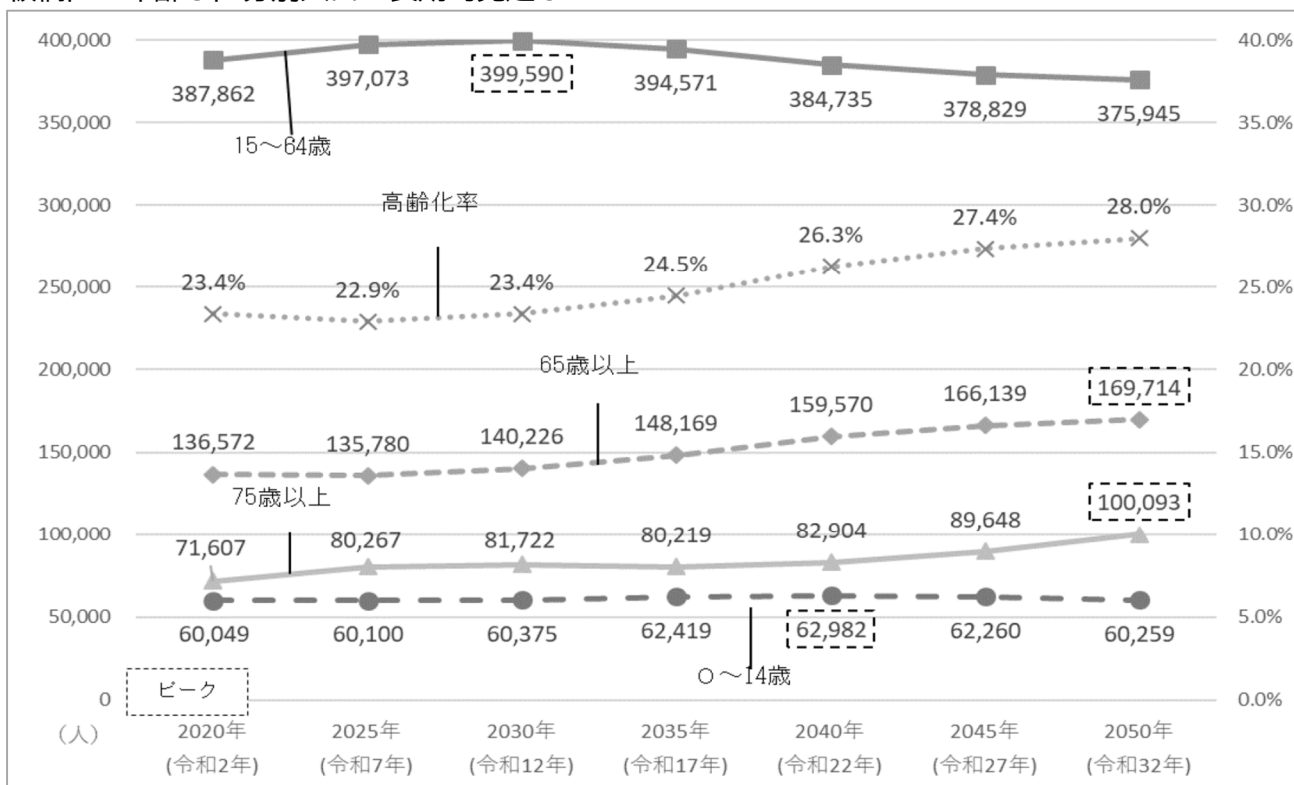
資料：板橋区人口ビジョン（令和 6（2024）年 9 月）

◆板橋区の総人口の長期的見通し



資料：板橋区人口ビジョン（令和6（2024）年9月）

◆板橋区の年齢3区分別人口の長期的見通し



資料：板橋区人口ビジョン（令和6（2024）年9月）

## 4 前計画の進捗状況と課題の整理

### (1) 前計画の目標値の達成状況

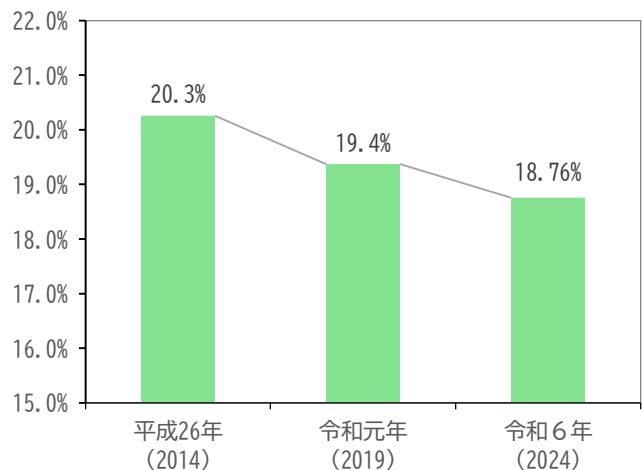
前計画では4つの数値目標を掲げていました。その達成率は以下のとおりです。

#### ①緑被率

平成 26 (2014) 年度 時点実績値	令和 7 (2025) 年度 目標値	令和 6 (2024) 年度 調査値	評価
20.26%	21.00%	<b>18.76%</b>	<b>未達成（仮）</b>

民有地の農地・樹木・樹林・竹林・生垣といったみどりが減少傾向となっています。民有地のみどりをはじめとしたみどりをいかに将来に引き継いでいくかが課題となります。

公共用地においては、樹木を大きく剪定したことによって葉が覆う面積が小さくなったことが緑被率の低下に影響しています。樹冠の拡大を含め、みどりを適切に維持管理していく必要があります。

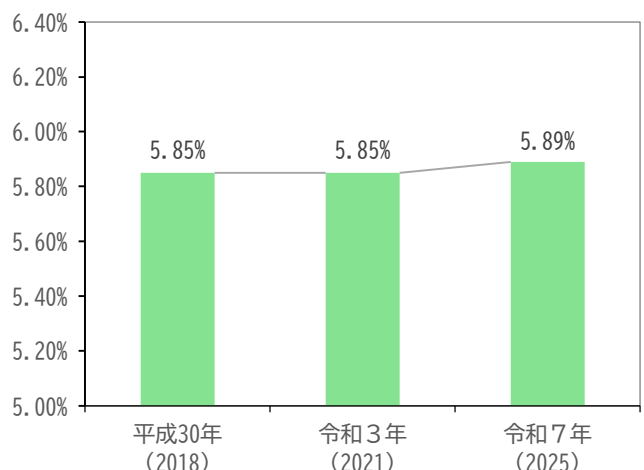


#### ②公園率

平成 30 (2018) 年 時点実績値	令和 7 (2025) 年度 目標値	令和 7 (2025) 年 4月1日時点	評価
5.85%	6.10%	<b>5.89%</b>	<b>未達成（仮）</b>

当初見込んでいた都立公園の拡張工事が事業途中ということもあり、目標には達成していません。また、都市部である板橋区においては新たな公園を作るための用地の確保も容易ではありません。

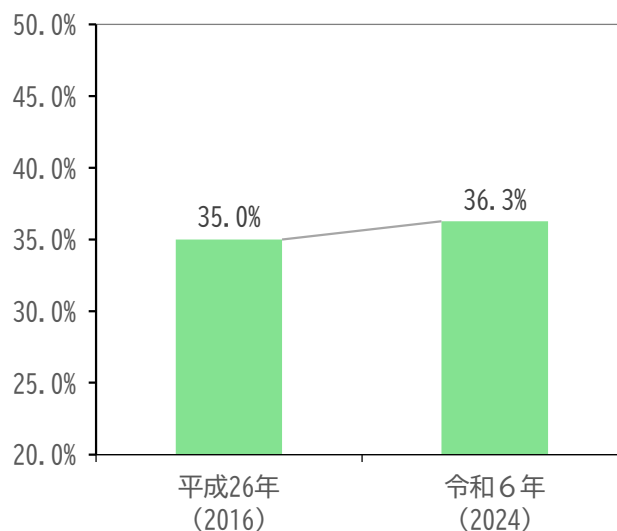
市街地開発事業などにおいて公共貢献として公園を整備するなど、今後とも公園の整備に努めていく必要があります。



### ③区民満足度

平成 28 (2016) 年度 時点実績値	令和 7 (2025) 年度 目標値	令和 6 (2024) 年度 調査値	評価
35.0%	40.0%	36.3%	未達成(仮)

平成 28 年度時点と比較すると増加しているものの、目標には届いていません。みどりの量や質について、多くの区民が豊かになったと感じられるように、生活に身近で親しみをもてるみどりを維持管理・創出するとともに、みどりと関係する機会の創出を公民連携により展開していく必要があります。



※いたばしグリーンプランに関するアンケート調査より  
『お住いのまわりのみどりは、「地域の魅力を高める」という点からみて、満足できますか。』の問いに対する回答割合

### ④参加者数

平成 30 (2018) 年度～令和 7 (2025) 年度の 8 年間の目標値	令和 6 (2024) 年度 末時点延べ参加人数	評価
延べ50万人	36.8 万人	未達成(仮)

これまでの実績では、目標を達成することは困難な状況です。新型コロナウイルス感染拡大によるイベント中止の影響があったものの、今後はより魅力的なイベントの創出や効果的な広報、新たなみどりと関わるができる機会の創出に努めていく必要があります。

#### ◆対象となるみどりのイベント・協働活動一覧

イベント名	
グリーンフェスタ	収穫体験学習
地域がつくる公園制度	茶摘み体験学習
花づくりボランティア	緑のカーテン普及事業
公園刈り込みボランティア	かんきょう観察事業
赤塚植物園講習会	板橋グローブクラブ
赤塚植物園観察会	ニリンソウ散策ツアー
緑のガイドツアー	板橋森林ボランティア
水田耕作体験	赤塚植物園農業園イベント
里山体験事業	石神井川お花見散策ツアー



## (2) 施策展開のテーマの達成状況と課題

前計画では、「“みどり” でつなぐ《ひと・まち・みらい》」のテーマのもと、3つの施策展開のテーマを設定し、計画を進めてきました。その達成状況と課題は以下のとおりです。

### テーマⅠ “みどり” を次世代につなぐ <みらい> (目標達成率 58.0%)

事業	済	A	B	C	達成率
緑の資産の保全と継承	1	3	4	3	36.3% ( 4/11)
農のみどりの保全と活用	2	5	2	3	58.3% ( 7/12)
生物多様性の向上による生態系の保全と再生	0	4	1	0	80.0% ( 4/ 5)
うるおいのある水辺と湧水の保全	0	3	0	0	100.0% ( 3/ 3)
合 計	3	15	7	6	58.0% (18/31)

**評価基準** A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし  
C：実施しなかった、又は実績が低下した

## 主な成果

### 農業体験学校の整備（平成 30（2018）年度）、農業園の開園（令和 2（2020）年度）

- 施設を整備するとともに、収穫体験などの農に興味を持つきっかけを提供することで、農の景色を未来に継承する一助となっています。



### 樹林地管理方針の策定（令和 4（2022）年度）

- 樹林地の特徴を踏まえたあるべき姿を整理し、適正な樹林地を将来に引継ぐための管理方針を示すことができました。

### 景観形成重点地区の追加指定 板橋宿不動通り地区（令和 4（2022）年度）

- 風情ある街並みを形成する地区として、“みどり”などの景観形成方針を設定しました。

## 公民連携によるみどりの創出 ～MFLP・LOGIFRONT 東京板橋～

MFLP・LOGIFRONT 東京板橋は令和6（2024）年10月2日に舟渡4丁目の新河岸川左岸沿いに開設された大規模な物流施設で、事業者と板橋区との公民連携により、地域に貢献する防災機能や質の高いみどりを整備しています。

### 1. 施設内に整備された防災機能

- ・災害時にヘリポートとしても活用できる高台広場
- ・河川が氾濫したときに地域住民が1,000人逃げ込める緊急一時退避場所
- ・高台広場から建物内の緊急一時退避場所へ接続するための避難路（デッキ）
- ・災害時の支援物資の保管・配送拠点として、倉庫の一部を板橋区へ提供

### 2. 公民連携で創出されたみどり

- ・舟渡水辺公園と敷地内の高台広場等を一体整備
- ・新河岸川の沿川の広場及び緑道を整備

資料)

「三井不動産×日鉄興和不動産 都内最大の街づくり型物流施設「MFLP・LOGIFRONT 東京板橋」竣工 ～希少性の高い立地と最高峰の施設スペックで物流・地域社会・産業創造の拠点に～」

（三井不動産ニュースリリース、令和6（2024）年10月2日）

「全国初！高台まちづくりを盛り込んだ官民連携の都市計画の決定」（板橋区報道発表資料、令和5（2023）年1月26日）



施設内の災害対応施設



わくわく広場

（上記写真はいずれも三井不動産  
ニュースリリースより）

## 課題（テーマⅠ）

### ① 緑被率が低下傾向

- ・ 土地の売却による土地利用の変化や腐朽による倒木の恐れなどにより、民有地のみどりを中心に、緑被率が低下傾向となっています。  
⇒みどりを将来に残し、みどりの持つ機能を発揮させて快適な暮らしを実現する必要があります。



### ② 農のみどりが減少傾向

- ・ 相続に起因する宅地化により、生産緑地地区や区民農園の面積、箇所数が減少傾向となっています。  
⇒板橋区の特徴でもある農業を次世代に継承するために、農地等を活用し、農地の保全について関心を高める必要があります。



### ③ みどりの機能を発揮するための保全と適切な維持管理

- ・ 崖線や樹林、農地といったみどりは、手入れが十分に行き届かない場合、本来持つべき雨水の貯留浸透による防災機能や、多様な生物をはぐくむ機能、美しい景観を形作る機能などが損なわれるおそれがあります。  
⇒これらの貴重なみどりが持つ多様な機能をみなさんと共に将来にわたって発揮させていくためには、所有者による適切な管理を支援するとともに、地域の実情に応じた持続可能な保全・管理のあり方を検討し、確立していく必要があります。

## テーマⅡ “みどり” で街並みをつなぐ <まち>（目標達成率 75.0%）

事業	済	A	B	C	達成率
みどりの創出による快適なまちづくり	0	5	1	4	50.0%（5/10）
公園の整備とリニューアル	3	10	1	0	92.9%（13/14）
合 計	3	15	2	4	75.0%（18/24）

**評価基準** A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし  
C：実施しなかった、又は実績が低下した

### 主な成果

#### まちづくり事業の推進（継続中）

- まちづくり事業やプラン策定の中で、オープンスペースの整備や、公共空間にみどりを導入し、みどりで街並みをつないでいく等を検討しました。
- 市街地再開発事業
  - ・上板橋駅南口駅前東地区
  - ・上板橋駅南口駅前西地区
  - ・大山町クロスポイント周辺地区
  - ・板橋駅板橋口地区
  - ・板橋駅西口地区
  - ・大山町ピッコロ・スクエア周辺地区
- まちづくりプランの策定
  - ・高島平地域交流核形成まちづくりプラン

#### 公園をリニューアル

- 公園を、より魅力あるものに再整備しました。
  - ・小豆沢公園（あずさわスポーツフィールド整備）
  - ・東板橋公園（板橋こども動物園リニューアル）
  - ・板橋区平和公園（中央図書館の移転）
 これらの公園と施設の一体的な整備は、区民の憩いの場となるだけでなく、まちのブランド価値を高め、区への愛着や誇りを醸成する重要な取組となりました。



- 上記の他、緑化指導や街路樹の維持管理などによる、“みどり”の創出を継続しています。



## 課題（テーマⅡ）

### ① まちづくりによる民有緑化のさらなる推進体制の構築

- ・ 現状、個別の相談ごとに民有緑化を図っており、まち全体を見据えた、広い視点による民有緑化の推進体制とはなっていません。  
⇒まちの魅力を更に向上させるために公民が一体となったみどりのまちづくりの推進体制を構築し、地域の特色を反映した民有緑化を進めていく必要があります。



### ② 多様な手法による民有緑化の推進

- ・ 任意の民有緑化推進のための助成制度は、緑化スペースの不足や植栽に付随する建築などのコストの課題などから需要が少なく、実績が伸び悩んでいます。  
⇒今後は、単に緑の量を増やすだけでなく、地域の景観との調和や生物多様性への配慮、人々の憩いや交流の場を生み出すなど、ウェルビーイング（幸福度）の向上に資するみどりの創出を促すため、新たな枠組みにより民有緑化を図っていく必要があります。



### ③ 公園樹木や街路樹の維持水準の向上

- ・ 公園の樹木や道路の街路樹といった公共用地の緑では、枝を大きく剪定したことによって葉が地面を覆う面積が小さくなったことが緑被率の低下に影響するとともに、景観が損なわれるといった事象が見られます。  
⇒大きく剪定することは、費用面では効率的であるものの、緑被率の低下に繋がることや、まちの景観を損ね、まちの魅力低下に繋がることから、費用面と環境面、景観面などのバランスが取れた維持管理を進めることで、みどりの質の向上を図る必要があります。

調整中  
強い剪定の  
イメージ写真



## テーマⅢ “みどり” と人をつなぐ <ひと>（目標達成率 78.2%）

事業	済	A	B	C	達成率
みどりを楽しむライフスタイルの推進	0	13	0	2	86.7%（13/15）
みどりと人をつなぐ仕組みづくり	0	0	1	0	0%（0/1）
公園を使いこなす仕組みづくり	2	3	2	0	71.4%（5/7）
合 計	2	16	3	2	78.2%（18/23）

**評価基準** A：実施した、又は実績が向上した  
C：実施しなかった、又は実績が低下した

B：検討した、又は実施したが十分な効果なし

### 主な成果

#### こども動物園、赤塚植物園に指定管理者を導入

- “みどり” と人をつなぐ協働活動のきっかけの一助として機能しています。

#### “みどり” への興味のきっかけとなる事業を実施

- 緑化啓発の事業として、グリーンフェスタ、緑のガイドツアーを実施しました。
- 環境教育の一環として、区内小中学校や保育園、幼稚園などに環境教育プログラムを提供しました。

#### “みどり” をはぐくむ協働活動を実施

- みどりがより豊かで美しくなるよう、区民との協働活動を実施しました。

協働活動	登録人数（令和 6（2024）年度）
花づくりボランティア活動	732 人
地域がつくる公園制度	564 人
公園刈り込みボランティア	48 人
板橋森林ボランティア	48 人

#### 公園利用の活性化のための制度改正を実施

- 犬と歩ける公園を設置しました。（平成 31（2019）年条例一部改正）
- 公園を全面禁煙にしました。（令和 3（2021）年条例一部改正）



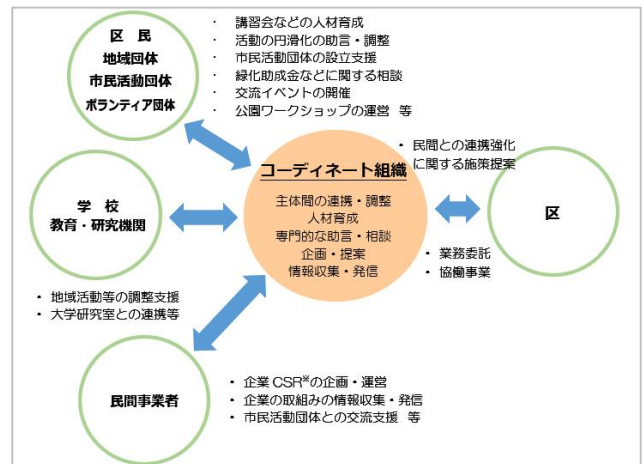
## 課題（テーマⅢ）

### ① 区民との協働を促すコーディネート体制が未導入

- ・ こども動物園では、区内在住の小中学生が動物の飼育や接客などを行う「こども動物クラブ」を実施しています。また地域の方々に公園の美化活動に参加いただく「地域がつくる公園制度」など様々な“みどり”と人をつなぐ区民との協働を実現できているものの、前計画で掲げていたコーディネート機能を持つ体制の導入には至っていません。

⇒板橋区パークマネジメントガイドラ

インの基本理念では「みんなでつくる 人をつなぐ公園」を掲げており、区民がより幅広く活動できる公園管理を更に進めるためにも、協働のあり方を見直すとともに、地域と民間などの活力を活かせる体制を検討する必要があります。



### ② 公園を使いこなす仕組みづくりが道半ば

- ・ ボール遊びについて、利用者や近隣住民の意識などを把握する実態調査を実施しましたが、各公園でのボール遊びのルールの設定には至っていません。

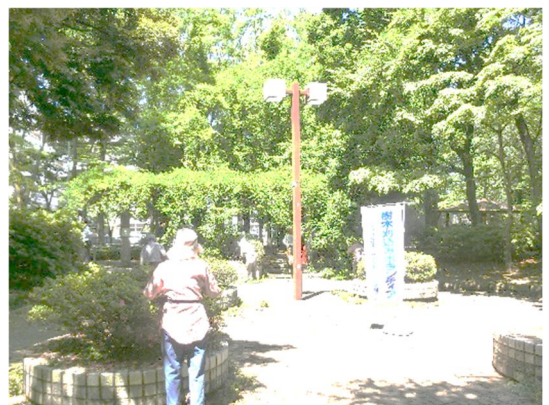
⇒まち全体の価値を高めるためにも、板橋区の資産である公園を活かし、価値を高めていく必要があります。



### ③ 日常的にみどりと関わり、みどりを守り育てる活動の機会の創出

- ・ 区民が主体となるみどりの維持管理活動は、一部の熱心なボランティアの方々に支えられていますが、参加者の固定化や高齢化が進んでいるといった課題があります。また、清掃・除草といった作業内容が、新たな参加者、特に若年層や子育て世代にとっては参加のハードルとなっている側面もあります。

⇒みどりを守り育てる活動の持続性を確保するため、より多くの区民が関心を持てるような魅力的なイベントの企画や活動の場の創出や、気軽に参加できるような仕組みづくりが求められています。例えば、短時間で参加できるプログラムを設けたり、活動の成果が様々な方に目に見える形で実感できるような工夫をしたりすることで、維持管理活動の機会を創出していくことが課題です。



### (3) 計画全体を通じた推進に関する課題

#### グリーンインフラとしての課題

- ・ 民有地の樹木や樹林、農地の減少のほか、公共用地の樹木の強剪定により緑被率が低下しており、みどりが持つ雨水貯留浸透、生物多様性保全、景観形成、健康増進効果、コミュニティ形成、環境教育、区民の憩いの場としての機能や価値が十分に発揮されていない状況です。今後は、社会課題の解決に、みどりが持つ多面的機能活かすグリーンインフラの視点を取り入れた戦略的な取組が必要です。

#### 協働としての課題

- ・ みどりの維持管理活動は参加者の固定化・高齢化が進み、若年層や子育て世代の参加が少ない状況です。また、前計画で掲げていた「コーディネート機能を持つ体制」の導入には至らず、区民が幅広く活動できる公園管理やみどりとつながる仕組みが不十分です。今後は、多様な世代がみどりに関心を持てる魅力的なイベントの企画や、気軽に参加できる仕組みづくりを通じて、生活の中でみどりと触れ合うことでみどりの豊かさを感じる、地域と民間の活力を活かせる持続的な協働体制の構築が求められています。

#### 各施策の事業量目標が明確になっていない

- ・ 各施策の年度別計画が示されていないことから、年度毎の明確な事業量に基づく進行管理ができていません。各施策について、明確な事業量を示して定量的な進行管理を行うことで、より実効性の高い計画としていく必要があります。

## 第4章



### いたばしグリーンプラン 2035 の 計画目標と実施方針

- 1 計画改定のポイント
- 2 めざす将来像と基本方針
- 3 計画の目標
- 4 施策展開の視点
- 5 実施方針
- 6 プランの推進と進行管理



# 1 計画改定のポイント

第3章で整理した社会状況の変化と前計画の成果、見えた課題を踏まえ、計画改定のポイントを以下に示します。

## (1) 社会状況の変化と前計画の成果を踏まえた改定のポイント

これまでの成果や課題、そして社会の変化を踏まえ、これからの10年、板橋区のみどりづくりは新しいステージに進みます。持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を大切にしながら、単にみどりの量を増やすだけでなく、その質を高めることに力を入れます。みどりを持つ様々な力を最大限に引き出し、私たちの暮らしをもっと豊かにしていくことをめざします。

これらの取組を通じて、まちの価値を高める魅力的なみどりを創り出し、ウェルビーイング（幸福度）を実感できるまちをめざします。

また、グリーンプランの改定にあたり、本計画が対象とするみどりの一部である、公園・緑地の管理運営方針を定めたパークマネジメントガイドライン（平成30（2018）年策定）についても、本計画と合冊する形で併せて改定し、将来像の実現に向けて、計画的に事業を推進します。

なお、この取組において、次の2つの視点を柱に据え各施策を進めていきます。

### 「グリーンインフラ」の推進

みどりを持つ、防災、健康、コミュニティづくりといった多様な力を、まちの様々な課題解決に活かしていきます。

### 「連携・協働」の強化

行政だけでなく、区民や事業者の皆さん知恵や活力を持ち寄り、みんなの力をみどりのまちづくりを進める原動力とします。

## グリーンインフラについて

グリーンインフラとは、自然環境が持つ多様な機能を、社会資本整備や土地利用に戦略的に活かしていく考え方で。

これは、単に緑の量を増やすこと（緑被率の向上）だけを目的とするのではなく、みどりが持つ力をまちづくりに活かし、福祉、医療、教育といった分野にも貢献することで、区民一人ひとりの生活の質を高めていく考え方で。

この取組を効果的に進めるには、民間や専門家、区民といった各主体と行政が地域や分野を超えて協働を実現することが不可欠です。この実現のために、区民や事業者が自ら参加したくなるような協働の仕組みづくりや、国のグリーンインフラ官民連携プラットフォームでも示されているように、民間の資金やノウハウを活かした公民連携による取組も積極的に推進し、社会全体の力で持続可能なまちづくりをめざします。

### ◆社会状況の変化に対してグリーンインフラで期待される効果の例

社会状況の変化	期待される効果の例
(1) ウェルビーイングの希求 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動や散歩のきっかけが生まれる</li> <li>・みどりで心と体をリフレッシュできる</li> <li>・四季の彩りや美しい街並みをつくる</li> <li>・地域のシンボルとなる景色を守り育てる</li> <li>・みどりを育てる活動を通じて、社会的なつながりが生まれる、愛着が高まる</li> </ul>
(2) アクティビティ創出への期待増大 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント開催の場となる</li> <li>・地域活動の拠点になる</li> <li>・人々の出会いや交流を促す</li> <li>・地域のブランド価値が上がる</li> </ul>
(3) ネイチャーポジティブの提唱 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな生きもののすみかを守り、はぐくむ</li> <li>・生きものたちのつながり（生態系ネットワーク）を強める</li> </ul>
(4) ゼロカーボンに向けた取組強化 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木々が二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収してくれる</li> <li>・建物の緑化などで省エネ効果を高める</li> </ul>
(5) 豪雨災害の激甚化・頻発化 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水を一時的に貯めたり、ゆっくり地面にしみ込ませたりして、水害の危険性を減らす</li> </ul>
(6) ヒートアイランド現象の激化 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木陰が涼しい空間をつくる</li> <li>・植物が持つ蒸発散効果でまちなかの気温上昇を和らげる</li> </ul>

社会のさまざまな課題  
自然災害の激甚化・頻発化、環境の保全、  
人口減少・高齢化、インフラの維持更新 など

これまでの  
インフラ整備だけ  
では対応が難しい

## グリーン

### 自然環境の様々な機能

雨水貯留・浸透  
による防災・減災

心身のリラックス

生物の生息・  
生育の場の提供

CO<sub>2</sub>の吸収

景観形成

物資の生産



## インフラ

### 社会資本整備、まちづくり、土地利用

まちづくり

公園

河川

道路

港湾

防災・減災

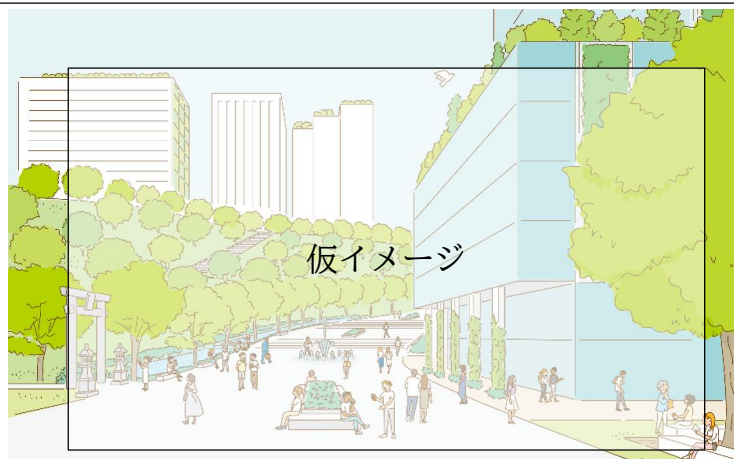
自然環境が有する  
多様な機能を活用

## グリーン インフラ

地域振興

環境

地域に合わせたグリーンインフラを整備することで、  
持続可能で魅力ある都市づくり、地域づくりを進める



資料：グリーンインフラの推進について（国土交通省）を基に作成

## 協働による取組の必要性

私たちのまちの公園や緑地などのグリーンインフラは、景観や健康、防災など多くの恵みをもたらす社会全体の財産です。この財産を未来に活かすためには、行政だけでなく、地域住民や事業者、NPOなどが力を合わせる「協働」が不可欠です。

### 協働の進め方

「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言」を踏まえると、グリーンインフラに対する協働の進め方は以下のようになります。

- 公園や緑地などのグリーンインフラを社会全体の共有財産と捉え、区民や事業者、団体といった多様な主体が共に育て、共に創るパートナーシップを基本とします。
- グリーンインフラの特性に応じて管理運営の役割分担を多様化し、新たな担い手の拡大と共創を図ります。
- 民間のノウハウや活力を積極的に取り入れる仕組みをつくり、担い手の自主性・自律性を尊重します。

### 協働がもたらす効果

#### 連携による相乗効果

行政と民間、専門家、区民などがそれぞれの得意分野を持ち寄り、地域や分野を超えて協力することで、一つの組織だけではできない大きな成果が生まれます。

#### コミュニティの醸成と地域への愛着

公園の手入れやイベントの企画や運営などを通じて人々が交流し、地域のつながりが深まります。自分たちの手で場所を良くしていく活動は、その場所への愛着や誇りをはぐくむことにもつながります。

- ・ 子どもたちが自然の中で健やかに育つ遊び場や学びの場が確保されます。
- ・ 公園の手入れやイベントの企画といった共同作業は、新たな楽しみとなり、住民同士の触れ合いを生み、地域コミュニティをはぐくみます。
- ・ 自分たちの手でまちを良くしていく活動は、地域への愛着と誇りを高めることにつながります。

グリーンインフラの推進における協働は、参加するすべての人が利益を得られる活動です。一人ひとりが「自分ごと」として関わることで、持続可能で魅力ある地域社会を共に創り上げていくことができます。



## テーマⅠ “みどり”を次世代につなぐ <みらい>

### 快適な未来に向けて、みどりの持つポテンシャルの最大活用

- 板橋区の大切なみどりが、少しずつ減少しています。個人の敷地にある農地や樹林をはじめとしたみどりをどう未来へ引き継いでいくかが大きな課題です。
- 一方で、みどりに対する見方は大きく変わってきました。みどりは、ただそこにあるだけでなく、私たちの暮らしを支える“必要不可欠なインフラ”の一つとして、その価値が見直されています。
- そこで、みどりが持つたくさんの力（生物多様性の保全、集中豪雨やヒートアイランド現象への対策、心と体の健康づくりなど）をさらに引き出し、環境にやさしく、安全で快適な未来の暮らしにつなげることをめざします。



## テーマⅡ “みどり”で街並みをつなぐ <まち>

### 歩きたくなるまちに向けたみどりの活用

- これまで、民有地の緑化を進めるために助成制度を設けていましたが、敷地のスペース不足や維持管理の難しさなどから、利用は伸び悩んでいました。
- 板橋区をより魅力的なまちにするためには、個別の取組だけでなく、まちづくりと一体となって、地域の価値を高めるようなみどりを創り出していく視点が重要です。
- そこで、今あるみどりを大切に守りながら、各地域のまちづくりの進展に合わせて新しいみどりを創出します。みどりを通してにぎわいが生まれ、思わず歩きたくなるようなまちの実現をめざします。



## テーマⅢ “みどり” と人をつなぐ <ひと>

### みどりを通して豊かさを感じられる「仕組み」の構築

- これまでの計画では、みどりづくりに関わる多様な人や団体をつなぐ「コーディネート体制」の導入が課題として残りました。
- みどりを通して暮らしの豊かさを実現するには、行政だけの力では限界があり、区民・事業者・行政が一体となって取組むことが不可欠です。
- そこで、それぞれの力を活かしながら、区民がより幅広く活動できる仕組みづくりを進めます。公園をより使いやすくし、みどりが持つ可能性（やすらぎ、憩い、健康づくりなど）を最大限に引き出すことで、多くの人がみどりによって“豊かさ”を感じられるまちをめざします。



## (2) 限りある貴重な“みどり”の最大限の活用

第3章「4 前計画の進捗状況と課題の整理」で掲げた〈みらい〉〈まち〉〈ひと〉の課題（P 35、P 37、P 39）を踏まえて「みどりの質」への取組方針について、以下に示します。

### 「減少傾向にある“緑”の量」

緑の量を指標とする「緑被率」は、残念ながら減少傾向にあります。市街地化が進む中で、かつてのように見渡す限り緑が広がる風景を取り戻すことは難しいかもしれません。



かつてのみどりの風景（昭和 30（1955）年頃）  
（荒川方面から高島平方面を望む）板橋区公文書館より

### 「みんなで新たな“みどり”を創出し活かす」

これからの 10 年は新しいみどりとの関わり方が大切になります。今あるみどりをみんなで守りながら、新しいみどりを創り出し、その力をこれまで以上に活かしていく。その中心となるのが、「みどりの質」を高めることです。

本計画が考える「みどりの質」とは、単に見た目が美しいだけでなく、みどりが健やかに育つみどりそのものと、そこから生まれる人とみどりの良い関係性をさします。

### 本計画が考える「みどりの質」の豊かさ

- 〈みらい〉健やかに育ち、生物多様性の保全などの機能が十分に発揮されているみどり
- 〈まち〉人々の暮らしのなかで身近に魅力を感じる美しい景観のみどり
- 〈ひと〉人々が日々気軽に触れ合い、様々なつながりを生み出すみどり



本計画での“緑”と“みどり”の定義（再掲）

緑 = 樹林や樹木など植物としての“緑”  
みどり = 植物としての緑のほか、公園・緑地などのオープンスペース、そこで生まれる交流の空間、農のみどり、河川の水辺や湧水、鳥や昆虫などの自然要素を含む、広い意味での“みどり”



## 2 めざす将来像と基本方針

### (1) 計画の全体像

前計画で見た課題	【前計画のテーマ】“みどり”でつなぐ《ひと・まち・みらい》
I みどりを次世代につなぐ 上での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑被率が低下傾向</li> <li>・ 農のみどりが減少傾向</li> <li>・ みどりの機能を発揮するための保全と適切な維持管理</li> </ul>
II みどりで街並みをつなぐ 上での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民有緑化の体制</li> <li>・ 多様な民有緑化の推進</li> <li>・ 公園樹木や街路樹の維持水準の向上</li> </ul>
III みどりと人をつなぐ 上での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働を促す体制が未導入</li> <li>・ 公園を使いこなす仕組みが道半ば</li> <li>・ 日常的にみどりと関わり、みどりを守り育てる活動の機会の創出</li> </ul>

#### 計画改定のポイント

- 快適な未来に向けて、みどりの持つポテンシャルの最大活用 <みらい>  
みんなでみどりのもつ多様な機能を更に引き出し、安全な未来の暮らしにつなげます
- 歩きたくなるまちに向けたみどりの活用 <まち>  
みんなでみどりの魅力を通して、にぎわいのある歩きたくなるまちをめざします
- みどりを通して豊かさを感じられる「仕組み」の構築 <ひと>  
みんなでみどりの持つ可能性を最大限発揮させ、豊かさの実感につなげます

### みんなで新たな“みどり”を創出し活かす

#### 将来像

**“ひと”と“みどり”の共生で ウェルビーイングが叶うまち “いたばし”**  
～貴重な“みどり”の活用と魅力ある“みどり”の創出～

#### 将来像実現のためのテーマ

### 持続可能な未来を“ひと”と“みどり”でつくる

—グリーンインフラと協働による課題解決—

#### 基本方針

#### みらいがつながる

みんなで区のレガシーであるみどりを守ります

みどりを活かして将来も  
過ごしやすいまちの実現に  
つなげていきます。

#### まちがつながる

みんなでまちをみどりで彩り  
地域の愛着をはぐくみます

まちづくり等を契機として  
みどりを活かした魅力的な  
まちを実現していきます。

#### ひとがつながる

みんなでみどりを通した  
ひとの輪を広げます

みどりと接する機会を通して  
より多くの区民が豊かな  
暮らしを実感できるように  
していきます。



## (2) めざす将来像

板橋区には崖線沿いの樹林地や湧水、荒川河川敷の水辺や台地上の農地など、貴重なみどりの資産があります。

これらの“みどり”と関わることで、私たちの暮らしがより豊かなものになっていく。これからの“みどり”は、そんな「かけがえのない存在」となります。

### 将来像

## “ひと”と“みどり”の共生で ウェルビーイングが叶うまち“いたばし”

～貴重な“みどり”の活用と魅力ある“みどり”の創出～

いたばしグリーンプラン 2035 がめざす将来像「“ひと”と“みどり”の共生でウェルビーイングが叶うまち“いたばし”」は、板橋区の最上位計画である基本構想と整合を図るものです。本計画では、この将来像をみどりの分野から実現するため、「～貴重な“みどり”の活用と魅力ある“みどり”の創出～」を独自の視点として掲げ、以下の考え方で取組を進めます。

### いたばしグリーンプラン 2035 が考える「“ひと”と“みどり”の共生」とは

いたばしグリーンプラン 2035 がめざす「共生」とは、単に人とみどりが同じ空間に存在する状態ではありません。それは、人とみどりが互いに良い影響を与え合う、双方向で豊かな関係性を指します。

#### “みどり”から“ひと”へ

みどりは、美しい景観や憩いの場となるだけでなく、気候変動による猛暑や豪雨から私たちの命を守り、心身の健康を支える、かけがえのないグリーンインフラです。本計画では、このみどりの持つ多面的な機能を最大限に「活かす」ことで、区民の安心・安全で快適な暮らしに貢献します。



#### “ひと”から“みどり”へ

人は、みどりを利用するだけでなく、みどりを育てる活動に参加し、その空間を使いこなすことで、みどりはより一層魅力的な場所になります。本計画では、さまざまな主体の協働を通じて、区民一人ひとりがみどりをはぐくむ主役となることで、みどりへの愛着や活動を通じた生きがいをはぐくみます。



## みどりの共生が実現する「ウェルビーイング」

第3章で示したようにウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に満たされた、幸福な状態を指します。上記のような「ひと」と「みどり」の共生は、以下の形で区民のウェルビーイング（幸福度）の向上に貢献します。

### 身体的・精神的な幸福

グリーンインフラとして機能する質の高いみどりは、夏の暑さを和らげ、きれいな空気をもたらします。また、身近な自然とのふれあいは、ストレスを軽減し、心の平穏を与えてくれます。



### 社会的な幸福

協働によるみどりの創出・育成活動は、世代を超えた人々の交流を生み、地域コミュニティのつながりを深めます。この社会的なつながりこそが、孤立を防ぎ、地域への誇りをはぐくむ、ウェルビーイング（幸福度）の重要な基盤となります。



このように、本計画は「貴重な“みどり”の活用」と「魅力ある“みどり”の創出」という両輪で「ひと」と「みどり」の共生を具体化し、板橋区全体の将来像の実現を、みどりの分野から後押ししていきます。



### (3) 前計画からの主な変更点

本計画は、「いたばしグリーンプラン 2025」で進めてきた取組の成果を継承しつつ、社会状況の変化や新たな課題に対応するため、これまでの「緑の量」の確保を基本としながら、新たに「みどりの質」の向上を重点に置きます。その実現のため、「グリーンインフラ」の考え方を本格的に導入するとともに、区民や事業者との「協働」をより一層推進します。

右のページに前計画と本計画の比較表を示します。なお、各目標値の詳細な設定理由や考え方については、「3 計画の目標」で説明します。

◆グリーンプラン 2035 と前回計画（グリーンプラン 2025）との比較

項目	計画名	いたばしグリーンプラン 2025	いたばしグリーンプラン 2035
将来像		未来をはぐくむ緑と文化の かがやくまち“板橋”	“ひと”と“みどり”の共生で ウェルビーイングが叶うまち いたばし
計画のテーマ		“みどり”でつなぐ 《ひと・まち・みらい》	持続可能な未来を “ひと”と“みどり”でつくる
施策展開の テーマ 基本方針		“みどり”を次世代につなぐ “みどり”で街並みをつなぐ “みどり”と人をつなぐ	みらいがつながる まちがつながる ひとがつながる
計画の 数値目標		策定時点 (平成28年度)	目標値 (令和7年度)
	緑被率	20.26% (平成26年度)	21.00%
	公園率	5.85%	6.10%
	区民満足度	35.0%	40.0%
	参加人数	5.7万人 (平成28年度)	50.0万人 (平成30年度 ～令和7年度)
		策定時点 (令和7年度)	目標値 (令和17年度)
	緑被率	18.76%	18.78%
	公園率	5.89%	5.92%
	区民満足度	49.2% (令和5年度)	58.2%
	参加人数	36.8万人 (平成30年度 ～令和6年度)	142.0万人 (令和8年度～ 令和17年度)
改定の視点		(1) グリーンインフラとしての“みどり”の多面的な価値の発揮 (2) 多様な主体との協働の活性化 (3) 「東京で一番住みたくなるまち」への寄与	(1) 快適な未来に向けて、みどりの持つポテンシャルの最大活用 (2) 歩きたくなるまちに向けたみどりの活用 (3) みどりを通して豊かさを感じられる「仕組み」の構築
課題		“みどり”の保全 生物多様性の向上 “みどり”の量的な確保 “みどり”の質の向上 “みどり”の豊かさの重要性の実感 区民参加の仕組み・メニューづくり	緑被率が低下傾向 農のみどりが減少傾向 みどりの機能を発揮するための保全と適切な維持管理 民有緑化の体制構築 多様な民有緑化の推進 公園樹木や街路樹の維持水準の向上 協働を促す体制が未導入 公園を使いこなす仕組みが道半ば 日常的にみどりと関わり、みどりを守り育てる活動の機会の創出
社会状況の 変化		・ “みどり”のストック効果の向上 ・ 都市と農の共生 ・ 快適で安心安全なまちづくり ・ 都市公園の柔軟な活用 ・ 生物多様性の向上 ・ 区民との連携促進 ・ グリーンインフラとしての“みどり”の多機能性の発揮	・ ウェルビーイングの希求 ・ アクティビティの期待増大 ・ ネイチャーポジティブの提唱 ・ ゼロカーボンに向けた取組強化 ・ 豪雨災害の激甚化・頻発化 ・ ヒートアイランドの激化
施策		28 施策	29 施策
事業		78 事業（重複除く）	100 事業（重複除く）



## (4) 基本方針

### 基本方針Ⅰ

## みらいがつながる

みんなで区のレガシーであるみどりを守り、みらいへつなげます

### イメージ写真

板橋区には、がけ沿いの森や湧水、荒川の豊かな自然、台地にある畑など、未来へ残したい貴重な“みどり”（レガシー）がたくさんあります。これらのみどりは、区民に“板橋らしさ”を感じさせ、多くの生きものの命を支える、私たちみんなの大切な宝物です。

この大切なみどりをしっかり守り、次の世代、さらにその先の世代へとつないでいくことが、みどりがもたらす豊かな恵みを未来の子どもたちへ届けることにつながります。大きな木がつくる涼しい日かげ、心なごむ美しい景色、畑での土とのふれあい、川辺でのやすらぎなど、みどりは様々な形で私たちの暮らしを支えてくれます。

### イメージ写真

特に、みどりが持つCO<sub>2</sub>を吸収する力や気温が上がるのを抑える力は、ゼロカーボンや暑熱対策（夏の暑さを和らげる）ことといった、未来の暮らしやすさに関わる課題の解決にとっても重要です。今あるみどりをみんなで守り続けることが、将来もずっと快適なまちづくりにつながります。

### イメージ写真

区内にある貴重なみどりを、私たちみんなの“レガシー”として大切に守り、支え、そしてその素晴らしさを子どもたちに伝えていくこと。これによって、板橋のみどりはさらに豊かなものとなり、未来の世代へと確かに引き継がれていきます。

「みらいがつながる」—それは、今のみどりをみんなで大切に守り、その価値を深く理解し、次の世代へきちんと手渡すことで、未来の人たちが豊かに暮らせるためのしっかりとした土台を築いていくことです。

## 基本方針Ⅱ

## まちがつながる

みんなでまちをみどりで彩り、地域の愛着をはぐくみます

### イメージ写真

まちの魅力は、立派な建物や便利な道路だけでつくられるものではありません。そこに住む人々が日々の中で感じる豊かさや、まちを歩く楽しさこそが、本当の価値につながります。“みどり”には、私たちの暮らしを快適にするだけでなく、人と人、人とまちをつなぎ、そこにしかない物語や愛着をはぐくむ大きな力があります。

### イメージ写真

現在、板橋区の様々な地域で進む駅周辺のまちづくりは、この考え方を実践する絶好の機会です。私たちは、単に新しい公園や広場をつくるだけでなく、その計画段階から「どう使えばもっと楽しくなるだろう？」と、地域の方々と対話を重ねます。こうしたプロジェクトを通じて、まちづくりを「自分ごと」として捉え、みんなでいっしょに創り上げていく過程そのものを大切にしていきます。

### イメージ写真

「緑のカーテン」のような小さな取組から、商店街や駅前を彩る並木道、そして誰もが憩える公園まで。一つひとつの“みどり”が有機的につながることで、まち全体が「歩いて楽しいウォーカブルなまち」へと変わっていきます。こうしたみどりのつながりは、暮らしを豊かにするだけでなく、地域ごとの魅力的な景観を生み出し、板橋区への新たな誇り（ブランド価値）を創造します。

「まちがつながる」—それは、みんなで主体的に関わるみどりのまちづくりを通じて、人とまちの間に豊かな関係性を築き、未来へと続く愛着を育んでいくことです。

みんなでみどりを通したひとの輪を広げます

## イメージ写真

みどりには、私たちの毎日に安らぎやいこいを与え、心と体を元気にし、人と人との絆を深める大きな力があります。この素晴らしい力をできるだけ活かすために、より多くの区民の皆さんとみどりを身近に感じ、その恵みを「いいね！」と実感できるような環境づくりを進めます。

## イメージ写真

例えば、公園を地域の庭のように、もっと使いやすく居心地のよい場所にします。ベランダやお庭、お店の前など、身近な場所で花やみどりを育てる活動を応援します。畑での野菜の収穫体験や、緑地での生きもの観察など、みどりと楽しくふれあえる機会を増やします。こうした取組で、みんなの暮らしの中にみどりを取り入れ、みどりを楽しむ生活スタイルをみんなで広げていきます。

## イメージ写真

さらに、みどりをきっかけに人と人が出会うことで、新しい交流が始まり、活動の輪がどんどん広がります。みんなで花壇をつくったり、公園をきれいにしたりと、みどりを育てる活動に参加することを通じて、子どもからお年寄りまで様々な世代の交流が生まれ、地域のコミュニティ（仲間の集まり）が育っていきます。そして、こうした活動を皆さんといっしょに広げることで、もっと豊かなみどりが生まれ、良い循環が生まれるのです。

「ひとがつながる」—それは、みんなでみどりを通じて人々の心を結びつけ、一緒に活動する楽しさや喜びを分かち合い、一人ひとりの幸せな暮らしをつくっていくことです。





## (5) 施策体系図

3つの基本方針にしたがって実施方針を設定します。また、基本方針を実施するための共通視点として、グリーンインフラの推進と連携・協働による取組、DXを掲げます。





本計画では、全体の目標を「区民のウェルビーイングの向上」に置きます。

ウェルビーイング（幸福度）は、身体的・精神的・社会的に満たされた状態を指す複合的な概念であり、そのすべてを単一の指標で直接測ることは困難です。そこで本計画では、最も重要な評価指標として「みどりの区民満足度」を位置づけます。区民のみなさんが、身近なみどりの環境に満足している状態は、みどりが憩いや交流、健康づくりなどの役割を十分に果たし、結果としてウェルビーイング（幸福度）の向上に貢献していることを示すものと考えするためです。

## (1) みどりの区民満足度に関する目標値

前計画ではみどりに関する満足度を測る指標として、グリーンプラン改定時に実施している「みどりに関するアンケート」の「住まいの周りのみどりについての満足度」の割合を目標値として設定していました。しかし、グリーンプランの改定期間中にアンケートを実施していたことから、細やかな現状把握に課題がありました。このことから、前計画からは板橋区が2年に一度実施する「板橋区区民意識意向調査」における「自然環境、公園・緑地に関する満足度」を指標とします。

区民満足度は本計画の改定のポイントである「みんなで新たな“みどり”を創出し活かす」を実現するなかにおいて、「みどりの量の確保と機能の発揮の両面で取組を進める」うえで重要な指標です。

これまで行ってきたみどりの保全への取組を推進することに加え、ひととみどりがつながる機会の創出を強化することによりみどりの質を高めることで、区民満足度を向上させ、みどりとひととの関係創出・関係醸成により、みどりへの意識を高めます。

区民満足度



令和 5 (2023) 年度  
調査値  
49.2%

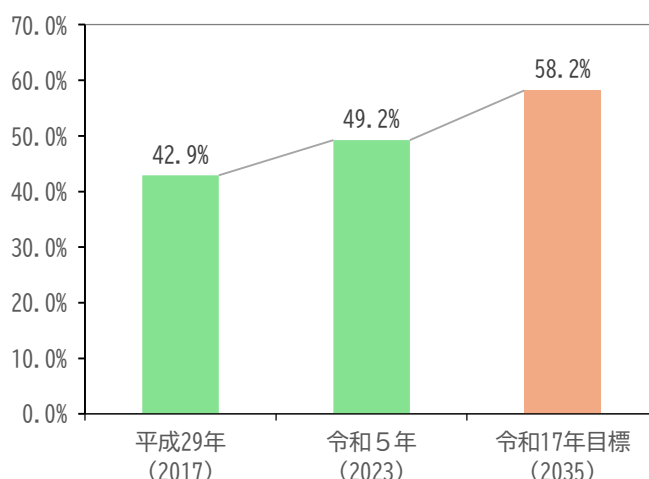


令和 17 (2035) 年度  
目標値

58.2%

自然環境についての満足度は、前計画策定時の平成 29 (2017) 年度の 42.9%から令和 5 (2023) 年度の 49.2%へと7年間で 6.3 ポイント上昇しています。今後は、より日常的にみどりと関わることができるみどりの保全や緑化推進、みどりの利活用の取組による、みどりをを感じる機会やみどりと関わる機会の創出を強化して取組むことにより、10年後の令和 17 (2035) 年度の身近なみどりに関する満足度を令和 5 年度より 9 ポイント高い 58.2%とします。

◆みどりの区民満足度の推移と目標値

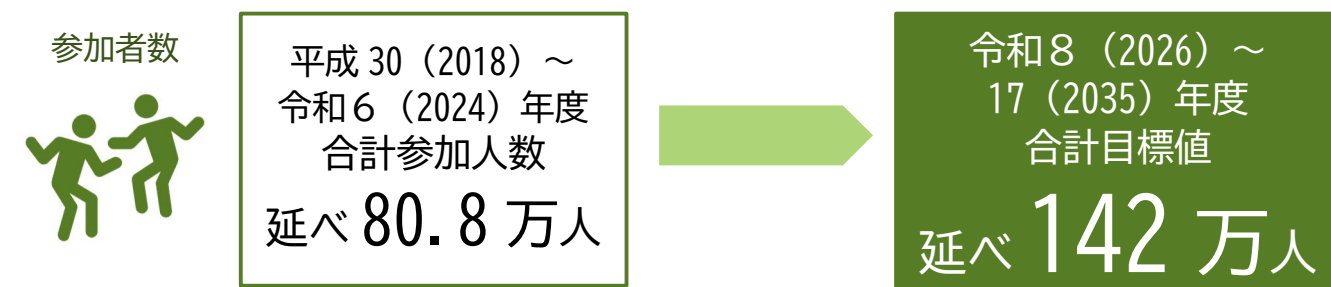




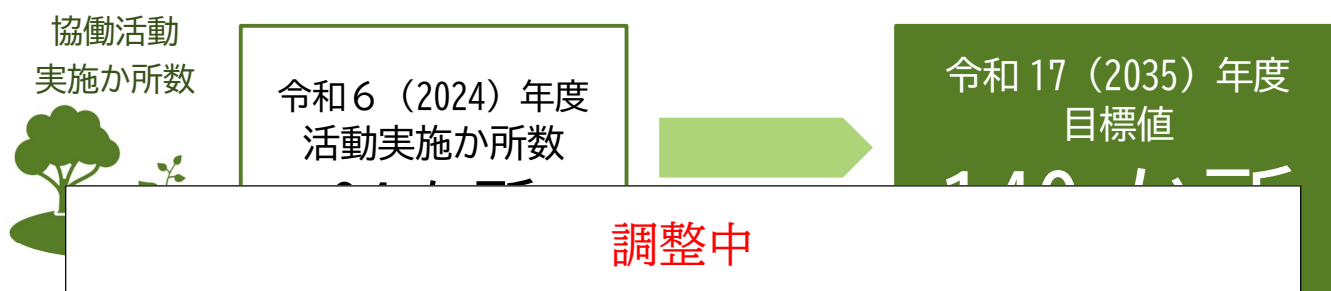
## (2) みどりとのかかわりに関する目標値

暮らしの中での“みどり”とのかかわりに関する指標として、みどりのイベント・協働活動参加者数と協働活動実施か所数を目標値として設定します。

活動の「量」である参加者数に加え、活動の「面的な広がり」を示す実施か所数に対しても目標値を設けることにより、協働が一部に偏らず、区内全域で活発化していることを示します。今後も誰もが身近な場所でみどりの協働活動に参加できる機会の充実をめざします。



※上記人数は、前計画の合計参加人数 36.8 万人  
に「農業まつり」の参加人数を含めた人数



参加者数は平成 30 (2018) 年度から令和 6 (2024) 年度までの間は、コロナ禍のためみどりのイベント・協働活動を中断や縮小した期間があったことから、目標に対して参加人数が伸び悩みましたが、今後ともみどりのイベント・協働活動を推進します。

今後、協働活動を行う団体において、高齢化による担い手不足が進行する課題に対して、若年層や子育て世代、団体など多様な主体の参画を促す新たな仕組みを構築し、協働活動に参加しやすい環境整備に取り組めます。

参加者数については、農業まつりやグリーンフェスタといった大規模なイベントのほか日常的な活動である花づくりボランティアなど協働の参加者数実績から年間 14.2 万人を継続し、令和 17 (2035) 年度の目標値を 142 万人とします。



### (3) みどりの量に関する目標値

区内のみどりの量を示す指標として、「緑被率」と「公園率」の2つを目標値に設定します。

緑被率は区全体の面積(32.2km<sup>2</sup>)に対する地面や屋上などが樹木や草、農地などのみどりで覆われている面積の割合を示すもので、5年ごとに実施する「緑地・樹木の実態調査」に基づいて算出します。

公園率は区内の都市公園の面積を基に算出します。



緑被率

令和5(2023)年度  
調査値  
18.76%



令和17(2035)年度  
目標値

18.76%

平成26(2014)年度以降、区内の緑被率は低下してきています。低下の原因は公有地の樹木の剪定、民有地の樹木と農地の減少が大きな要因です。公有地の緑被率の低下は、剪定による一時的な減少であり、民有地の緑被率の低下は、高齢化や相続により樹林地や農地を処分することに伴い、住宅や駐車場などになっていくことが多いものであると考えています。

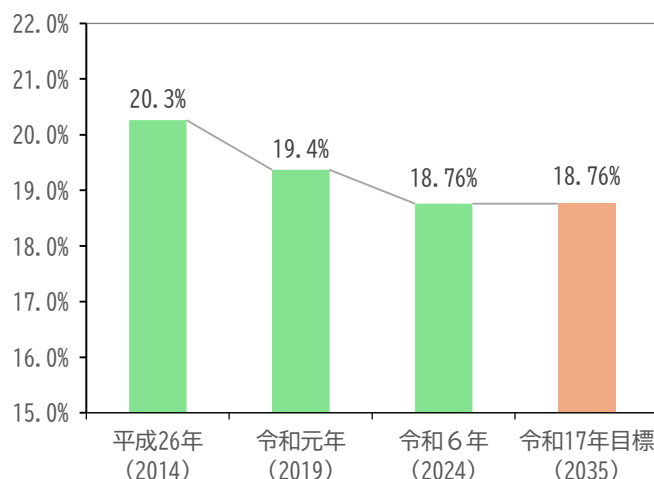
板橋区は令和12(2030)年までは人口が増加するものと想定しており、目標年次の令和17(2035)年度でも現時点よりも人口が多いものと想定されます。したがって、今後も同様の土地利用が考えられることから緑被率を上げることは難しいものと考えられます。

このことについて、近年、みどりの量が減少傾向にある板橋区において、これまで行ってきたみどりの保全に向けた施策の更なる推進に加え、まちづくりをはじめとした新たなみどりの空間創出等の取組により、これ以上みどりの量を減らさないことを目標とします。なお、公有地の樹木剪定について、樹冠拡大などの維持管理手法の検討を行うことで維持に努めます。

緑被率は現状維持を目標とするものの、公園・緑地の整備維持・管理により、CO<sub>2</sub>の吸収量を年間約170t増やす予定です。

なお、令和元(2019)年5月に東京都が策定した「東京が新たに進めるみどりの取組」では、2040年代は「東京の緑の総量としてこれ以上減らさない」ことを目標としています。

◆緑被率の推移と目標値



※緑被率を0.01%増やすためには、3,222㎡の緑被地面積が必要になります。



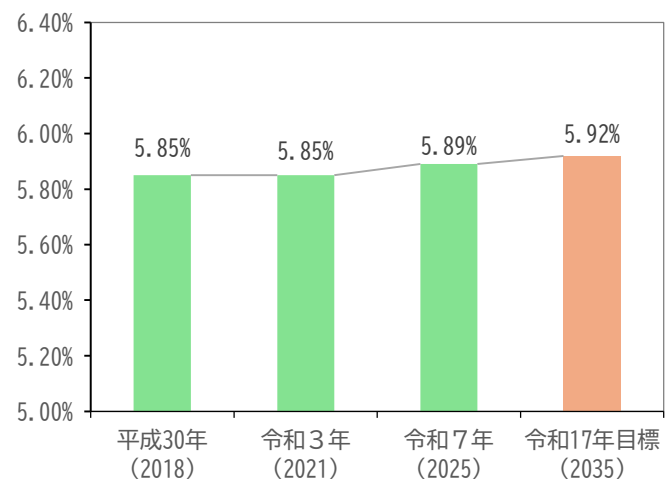
令和 7 (2025)  
年度実績値  
5.89%

令和 17 (2035) 年度  
目標値  
5.92%

公園率は区立公園、都立公園を対象としています。

平成 26 (2014) 年度以降、区内の公園率はほぼ横ばいとなっています。板橋区をはじめとした都市部では、用地確保が困難であり、新たな公園整備が難しい状況ですが、今後もまちづくり事業や用地取得の機会を捉え、戦略的に公園整備を行うことで、10 年後の令和 17 (2035) 年度の目標値を現在の公園率よりも約 0.03 ポイント高い、5.92%とします。

◆公園率の推移と目標値



## 4 施策展開の共通視点

本計画で示す実施方針は、3つの共通視点に基づき、施策を展開します。

なお、これらの取組は、持続可能な開発目標（SDGs）の理念と軌を一にするものであり、本計画の推進はSDGsの達成にも貢献するものです。

### 施策展開の共通視点①

#### グリーンインフラの推進によるみどりの機能の活用

グリーンインフラとは、道路やダムといった人工的な設備（グレーインフラ）だけでなく、自然が持つ様々な力を、社会の仕組みづくりや土地の利用方法に賢く活かしていこうという考え方です。

本計画では、このグリーンインフラの考え方を全ての施策の基本とします。

#### ひとつの“みどり”が持つ、たくさんのチカラ

「みどりの機能発揮」とは、みどりが持つたくさんの良い働き（機能）を、一つだけでなく、同時にいくつも発揮させて、様々な社会の課題解決につなげていくことを意味します。

例えば、公園を一つ考えてみましょう。

- 子どもたちが元気に遊び、お年寄りが散歩をする「健康づくりの場」（健康増進）
- 大雨が降った時に、雨水を一時的に貯めて水害を減らす「小さなダム」（浸水被害軽減）
- 木陰が夏の強い日差しを和らげ、涼しい風を生み出す「天然のクーラー」（ヒートアイランド対策）
- 鳥や虫たちが集まる「生きもののすみか」（生物多様性保全）
- 美しい景色で人々の心をなごませる「安らぎの空間」（良好な景観形成）
- イベントやお祭りで人々が集い、交流する「地域のステージ」（コミュニティ形成）

このように、一つの公園も、ただの「遊び場」としてだけでなく、防災、環境、健康、コミュニティなど、様々な役割を果たしています。

本計画では、公園、街路樹、農地など、“みどり”の保全・創出を計画する際に、こうした多面的な機能を最大限に引き出すことをめざします。一つの取組で、複数の課題を効率的・効果的に解決していく、賢いみどりづくりを進めます。



## 多様な主体が担い手となった連携・協働による取組推進

この計画を進める原動力は、区民、事業者、団体といった、皆さん一人ひとりとの「連携・協働」です。行政だけがみどりを守り育てるのではなく、みんなが主役となって、それぞれのアイデアや力を持ち寄ることで、もっと細やかで、もっと温かい、持続可能なみどりづくりができます。この計画では、皆さんの自発的な活動を応援し、活動の輪を広げていくための仕組みづくりを進めます。

### 「多様な主体」ってどんな人たち？

みどりづくりに関わる主役は、私たち一人ひとりです。

#### ◆多様な主体の役割と期待されるアクション

区民	みどりのある暮らしの主役です。自宅での緑化や、地域の清掃・花壇づくり、公園でのイベント企画など、最も身近な場所から、自発的にみどりを楽しみ、守り、育てる活動が期待されます。
事業者	地域の良き一員として、事業活動を通じた貢献役が期待されます。事業所の敷地緑化や、地域のみどり活動への支援・協賛、従業員が参加するボランティア活動の企画など、企業の社会的責任としての取組が重要です。
NPO・ボランティア団体など	専門的な知識や技術、ネットワークを活かした活動の中核役を担います。自然観察会や環境学習プログラムの提供、行政と区民をつなぐ中間支援、新たな協働プロジェクトの企画・運営などが期待されます。
学校・教育機関	次世代への継承役を担う重要な拠点です。総合的な学習の時間などを活用した環境教育の実践や、地域のみどり活動への参加が期待されます。
行政（板橋区）	多様な主体が活動しやすい環境を整えるポーター役を担います。全体の計画づくりや、活動の場の提供、情報発信、団体間のマッチング支援、活動のきっかけとなる事業の実施など、協働を促進するための基盤を整備します。

### 「協働」で生まれる無限の可能性

みんながそれぞれの得意なことや出来ることを持ち寄って協力することで、行政だけではできない、きめ細かで、愛情のこもった、多様なみどりづくりが可能になります。こうした活動を通じて、まちがみどりにより豊かになるだけでなく、人々の交流が生まれ、地域への愛着が深まり、コミュニティそのものが育っていきます。

### 施策展開の共通視点③

## DXによるみどりの機能の発揮

グリーンプラン 2035 におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）はみどりの価値を高め、私たちとみどりの関係をもっと豊かにするための強力なツールです。この計画では、主に3つの方法でデジタル技術を活用します。

### 知る・つながる（魅力的な情報発信）

SNSなどを活用して、公園の魅力や季節の見どころ、楽しいイベントの情報をタイムリーに発信します。これにより、皆さんがみどりとつながるきっかけを増やし、「行ってみたい」「参加してみたい」という気持ちをはぐくみます。

### 守る・育てる（効率的な維持管理と区民参加）

例えば、区では街路樹の異常などを、区民の皆さんがスマートフォンで手軽に通報できる仕組みを導入しています。皆さんと行政が情報を共有することで、より効率的できめ細やかなみどりの維持管理をめざします。

### 賢く計画する（根拠に基づく政策立案：EBPM）

公園の利用状況や地域の人口データ、皆さんからのご意見などを分析し、公園施設の改修や新しい公園の計画に活かしていきます。客観的なデータ（根拠）にもとづいて政策を決めることで、より区民の皆さんのニーズに合った、満足度の高いみどりの整備を実現します。

## DXにおける今後の取組

現時点においては全ての施策にDXの取組を掲載することは難しいが今後も、各施策・事業を推進するうえで、日々進歩するデジタル技術を、機会を捉えて活用することにより、「グリーンインフラの推進によるみどりの機能の活用」と「多様な主体が担い手となった連携・協働による取組推進」のより一層の推進をめざします。

3つの基本方針について共通視点を踏まえ、以下の実施方針で10年間の施策を展開します。  
 実施方針に基づき、各施策において、実施する令和8（2026）年度から令和10（2028）年度の  
 3年間の事業は第6章の第1期実施計画に示します。

### 本計画がめざす「魅力的なみどり」とは

本計画で用いる「魅力的なみどり」とは、単に見た目が美しいだけでなく、以下の3つの視点を満たし、人々の暮らしやまちの価値を高めるみどりを指します。続く12の実施方針は、こうした「魅力的なみどり」を区民や事業者のみなさんと共に創出していくための具体的な取組です。

#### ◆「魅力的なみどり」が満たす3つの視点

1. 景観的な魅力	地域の街並みと調和し、四季の移ろいを感じさせ、地域への愛着や誇りをはぐくむ、うるおいのある景観を創出するみどり <b>調整中</b>
2. 生態系としての魅力	多様な生きもののすみかとなり、生物多様性をはぐくむとともに、子どもたちが自然とふれあい、学ぶことができる、生命力あふれるみどり
3. 人々の活動をはぐくむ魅力	人々の憩いや交流、健康づくりの舞台となり、コミュニティを活性化させ、心身の幸福（ウェルビーイング）につながる活動を生み出すみどり

## 基本方針Ⅰ みらいがつながる

### 実施方針1 緑の資産の保全と継承

ー 板橋崖線軸地区をはじめとしたレガシーとなるみどりを守り、みどりの魅力を更に引き出します ー

#### この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	ネイチャーポジティブの提唱、豪雨災害の激甚化・頻発化
国や都の動向	グリーンインフラ推進戦略、都市緑地法改正
前計画の課題	緑被率が低下傾向(テーマⅠ・①・P35) みどりの機能を発揮するための保全と適切な維持管理(テーマⅠ・③・P35)



特別緑地保全地区（成増四丁目）

樹林地の保全に向けた用地取得や適切な管理助成のほか、個別の樹木や生垣の保全のために管理助成を行い、これらの景観を板橋のレガシーとして継承し、まちの魅力向上を図ります。

#### 実施する施策

- 01 樹林地の保全と継承
- 02 歴史ある大径木等の保全
- 03 板橋らしさを代表する緑の景観の保全と創出

### 実施方針2 農のみどりの保全と活用

ー いたばしではぐくまれた農地と農業を守り、魅力ある都市農業を展開します ー

#### この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	ネイチャーポジティブの提唱、豪雨災害の激甚化・頻発化
国や都の動向	都市農業振興基本法
前計画の課題	農のみどりが減少傾向(テーマⅠ・②・P35)



開設した赤塚農業園（赤塚植物園）

農地の保全に向けた農地減少対策のほか、農業の保全のための経営支援や農とふれあう機会創出、人材育成に取り組むとともに、区内産野菜の地産地消を促進し、農への愛着を高めます。

#### 実施する施策

- 04 農地の保全と継承
- 05 農業の保全と継承
- 06 未来へつなげる農作物の活用

※実施する施策は社会状況の変化や進捗状況に応じて見直す可能性があります。



### 実施方針3 湧水の保全とうるおいのある水辺空間の創出

ー 潤いの源である崖線の湧水を守るとともに、石神井川や、荒川をはじめとした親しめる水辺空間を創出します ー

#### この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	ネイチャーポジティブの提唱、アクティビティ創出への期待増大
国や都の動向	グリーンインフラ推進戦略、地域生物多様性増進法
前計画の課題	みどりの機能を発揮するための保全と適切な維持管理(テーマⅠ・③・P35)



不動の滝（赤塚5丁目）

河川の水辺空間をはじめとした親水スポットの魅力創出によるみどりとの関係創出のほか、この源である湧水の水循環のための環境維持・保全により、生活の質の向上を図ります。

#### 実施する施策

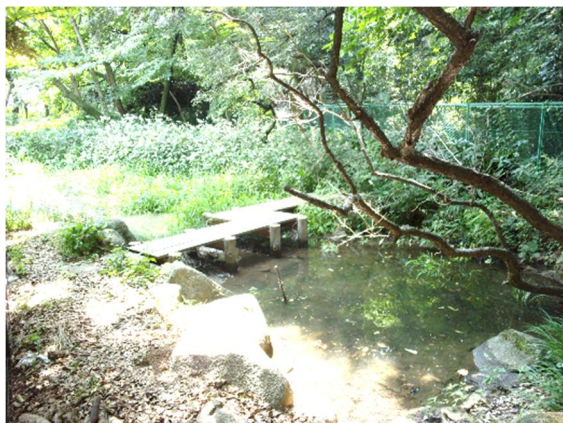
- 07 親しめる水辺づくり
- 08 湧水の保全

### 実施方針4 生物多様性の向上による生態系の保全と再生

ー ニリンソウやハクセキレイをはじめとする生物多様性を守り、みどりとの共生関係の基盤を築きます ー

#### この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	ネイチャーポジティブの提唱、アクティビティ創出への期待増大
国や都の動向	地域生物多様性増進法
前計画の課題	みどりの機能を発揮するための保全と適切な維持管理(テーマⅠ・③・P35)



赤塚溜池公園ビオトープ（閉鎖管理）

生物の生息・生育環境の観点から、共生基盤の保全と形成を図るほか、区や協働による環境施策の効果測定を行い、施策評価・課題抽出・改善及びみどりの意識啓発を図ります。

#### 実施する施策

- 09 自然環境実態調査の実施
- 10 エコロジカルネットワークの形成

※実施する施策は社会状況の変化や進捗状況に応じて見直す可能性があります。

## 基本方針Ⅱ まちがつながる

### 実施方針5 都市の拠点となるみどりの創出

— 魅力的で快適なみどりの拠点の創出により、愛着をはぐくみつなぐまちを実現します —

この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	アクティビティ創出への期待増大、ヒートアイランド現象の激化
国や都の動向	ウォーカブルなまちづくりの推進
前計画の課題	まちづくりによる民有緑化のさらなる推進体制の構築(テーマⅡ・①・P37)

#### 第5章パークマネジメントガイドラインの実施方針に対応



板橋駅西口 新しい駅前広場のコンセプトスケッチ

まちづくり事業や公園改修による、まちの拠点となるみどりの創出により、景観を向上させ、地域のにぎわいを生み出すとともに、日常的にみどりとつながる環境を創出し、地域への愛着を向上させます。

#### 実施する施策

- 11 まちづくりによるみどりの創出
- 12 公園改修による区内外のみんなが集う空間の創出

### 実施方針6 拠点間を結ぶみどりの創出

— 魅力的な拠点を結ぶみどりの道の創出により、歩きたくなるまちを実現します —

この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	アクティビティ創出への期待増大、ヒートアイランド現象の激化
国や都の動向	ウォーカブルなまちづくりの推進
前計画の課題	多様な手法による民有緑化の推進(テーマⅡ・②・P37) 公園樹木や街路樹の維持水準の向上(テーマⅡ・③・P37)



手入れの行き届いた街路樹

公民連携によるみどりの創出や街路樹等の質の向上のほか、みどりの魅力発信によりまちの回遊性の向上を図ります。

また、公有地のみどりについては、樹冠の拡大についても検討し、みどりの質を維持・向上させるための維持管理方針や適切な更新を図っていきます。

#### 実施する施策

- 13 みどりの回遊性の創出
- 14 歩きたくなるまちに向けた魅力発信

※実施する施策は社会状況の変化や進捗状況に応じて見直す可能性があります。



## 実施方針7 まちなかに広げるみどりの創出

ー 公民連携によるまちなかのみどりの創出により、居心地のよいまちを実現します ー

### この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	アクティビティ創出への期待増大、ネイチャーポジティブの提唱
国や都の動向	ウォーカブルなまちづくりの推進
前計画の課題	多様な手法による民有緑化の推進(テーマⅡ・②・P37) 公園樹木や街路樹の維持水準の向上(テーマⅡ・③・P37)

### 第5章パークマネジメントガイドラインの実施方針に対応



接道部緑化事例

公民連携によるまちなかのみどりの創出や、公園施設の改修整備による誰もが使いやすいみどり空間の創出のほか、教育現場でのみどりの創出等、日常的にみどりと関わる機会を増やすことで、みどりとのつながりやにぎわいを創出するとともに、まちなかの景観を向上します。

#### 実施する施策

- 15 街並みの緑化推進
- 16 公園新設・改修による地域 みんなが集う空間の創出
- 17 公園施設の改修
- 18 学校のみどりの保全と活用

## 実施方針8 暮らしを支えるみどりによる安心・安全の創出

ー 持続可能で安心・安全なまちをみどりで創出します ー

### この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	ゼロカーボンに向けた取組強化、豪雨災害の激甚化・頻発化
国や都の動向	グリーンインフラ推進戦略、森林環境譲与税の創設
前計画の課題	みどりの機能を発揮するための保全と適切な維持管理(テーマⅠ・③・P35)

### 第5章パークマネジメントガイドラインの実施方針に対応



板橋区の森(日光市)

みどりの啓発や維持・保全や整備のほか、適正な維持管理による機能向上を図り、みどりが持つ機能を最大限に発揮します。

#### 実施する施策

- 19 森林環境譲与税の活用
- 20 安心・安全なまちへ向けたみどりの活用

※実施する施策は社会状況の変化や進捗状況に応じて見直す可能性があります。

## 基本方針Ⅲ ひとつがつながる

### 実施方針9 みどりをみんなで使いこなす

ー みどりの空間のより柔軟な活用により、みどりの魅力を引き出します ー

この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	アクティビティ創出への期待増大
国や都の動向	都市公園の柔軟な活用
前計画の課題	公園を使いこなす仕組みづくりが道半ば(テーマⅢ・②・P39)

#### 第5章パークマネジメントガイドラインの実施方針に対応



イベント例(東板橋公園)

公園の画一的な管理・運営の見直しのほか、区民や事業者が企画するイベント活動の受入体制の仕組みを構築し、自主的な活動を支援することで、公園の魅力と価値を高めます。

#### 実施する施策

- 21 柔軟なルールの検討
- 22 みんなのやりたいを実現させる仕組みづくり

### 実施方針10 みどりと関わるライフスタイルの創出と醸成

ー みどりとの関係をはぐくむ「ふれあう機会」「学ぶ機会」「活動する機会」「連携する機会」を創出します ー

この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	アクティビティ創出への期待増大、ネイチャーポジティブの提唱
国や都の動向	都市公園の柔軟な活用
前計画の課題	日常的にみどりと関わり、みどりを守り育てる活動の機会の創出(テーマⅢ・③・P39)

#### 第5章パークマネジメントガイドラインの実施方針に対応



花づくりボランティア活動(四ツ又公園)

「みどりとふれあう機会」、「みどりを学ぶ機会」、「みどりと活動する機会」、「みどりで連携する機会」を通じた、持続的な協働活動により、みどりと人をつなぐ、ひととひとをつなぐ共生関係を構築します。

#### 実施する施策

- 23 みどりとふれあう機会づくり
- 24 みどりを学ぶ機会づくり
- 25 みどりと活動する機会づくり
- 26 みどりで連携する機会づくり

※実施する施策は社会状況の変化や進捗状況に応じて見直す可能性があります。



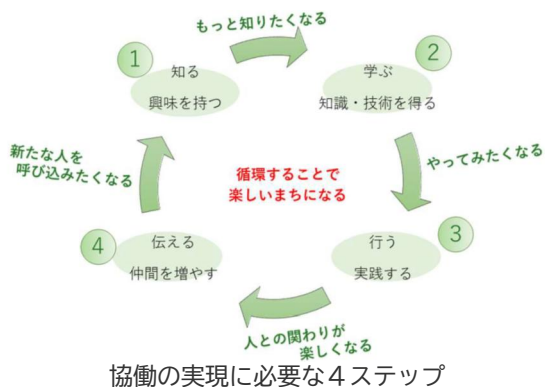
## 実施方針 11 新たな担い手の創出

— “ひと” と “ひと” のつながりでみどりへの取組の推進と新たな価値を創出します —

この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	アクティビティ創出への期待増大、ネイチャーポジティブの提唱
国や都の動向	都市公園の柔軟な活用
前計画の課題	区民との協働を促すコーディネート体制が未導入(テーマⅢ・①・P39)

### 第5章パークマネジメントガイドラインの実施方針に対応



「知る」「学ぶ」「行う」「伝える」を循環させる仕組みを構築し、協働による永続的なみどりとの共生関係を築きます。

#### 実施する施策

27 みどりと人をつなぐ仕組みづくり

## 横断的施策：DXによるみどりの機能の発揮

## 実施方針 12 DXによるみどりの機能の発揮

— DXの推進により“ひと”と“みどり”をつなぎます —

この実施方針が対応する主な課題・動向

社会状況の変化	アクティビティ創出への期待増大
国や都の動向	都市公園の柔軟な活用
前計画の課題	本計画からの新規施策

### 第5章パークマネジメントガイドラインの実施方針に対応



いたちよこブック（公園編）表紙

みどりの魅力発信や新たな通報システムによる施設管理、的確に動向を捉えた施設の計画改修により満足度を向上させます。

#### 実施する施策

28 デジタルツールの活用

29 E B P M（根拠に基づく政策立案）の実施

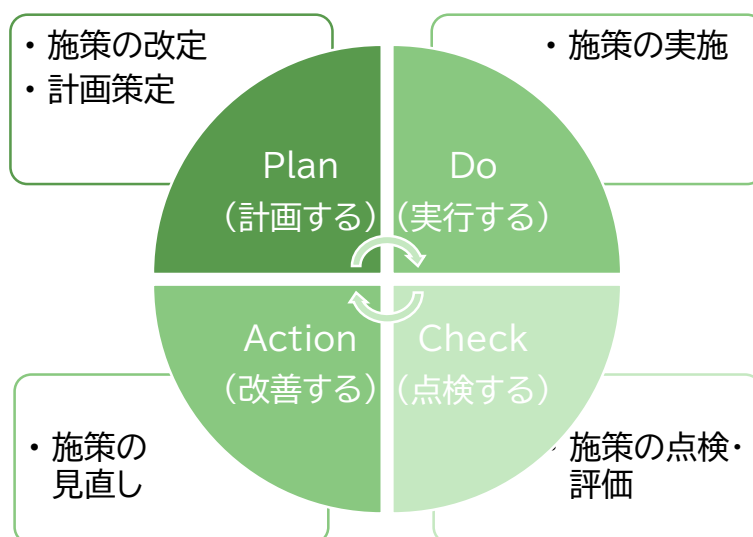
※実施する施策は社会状況の変化や進捗状況に応じて見直す可能性があります。

## 6 プランの推進と進行管理

いたばしグリーンプラン 2035 の実効性を確保し、社会状況の変化や区民ニーズに柔軟に対応しながら、将来像「“ひと”と“みどり”の共生でウェルビーイングが叶うまち“いたばし”」の実現をめざすためには、実効性のある推進体制と適切な進行管理が不可欠です。

### P D C A マネジメントサイクルの実施

本計画に基づく施策の推進にあたっては、計画－実行－点検・評価－改善のP D C A マネジメントサイクルを実施し、継続的な改善を図ります。各施策の進捗状況を定期的に把握し、目標達成に向けた課題や改善点を明らかにします。



### 「板橋区緑と公園の推進会議」による点検・評価

本計画の進捗状況を点検・評価する機関として、学識経験者並びにみどりの協働活動を行っている区民等で構成される「板橋区緑と公園の推進会議」を位置づけます。同会議は、本計画の進捗状況の点検・評価を行うとともに、計画の推進方策や、みどりに関する施策や課題についての提案及び助言を行います。これにより、専門的な見地や区民の視点からの評価・助言を今後の施策展開に反映させます。



## 第5章



### いたばしパークマネジメント ～公園が生きる、みらい・まち・ひとをつなげる～

- 1 はじめに
- 2 パークマネジメントの基本理念
- 3 パークマネジメントの目標と実施方針
- 4 公園種別ごとのマネジメントの方針



## (1) パークマネジメントとは

誰からもわかりやすい明確な公園の運営方針を定め、めざすべき姿を実現するために、地域住民・団体などと連携し、適切な管理運営を継続的に行っていくことをパークマネジメントといいます。



板橋区平和公園

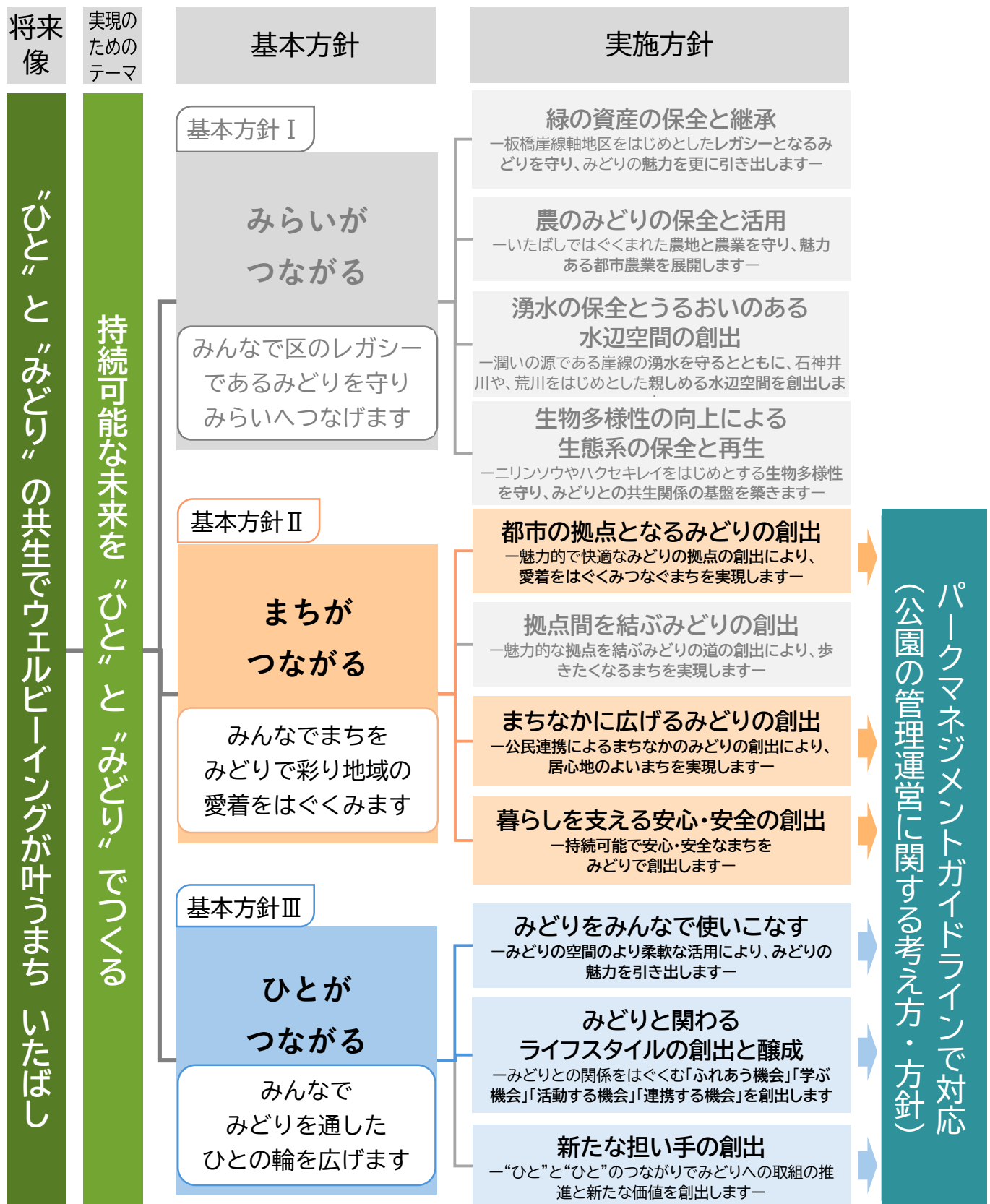
## (2) 本ガイドライン（第5章）の位置づけと役割（いたばしグリーンプラン 2035（第4章）との関係）

前計画である「いたばしグリーンプラン 2025」と前ガイドラインである「板橋区パークマネジメントガイドライン」は別冊ではあるものの、相互に連携・整合しながら各々の事業を進めてきました。

本計画では、計画に掲げた将来像である「`ひと、と`みどり、の共生でウェルビーイングが叶うまち いたばし」をより効果的に実現させるため、「いたばしグリーンプラン 2035」と「板橋区パークマネジメントガイドライン」を統合したうえで、計画を推進することにしました。

本章では第4章 いたばしグリーンプラン 2035 における「基本方針Ⅱ まちがつながる」「基本方針Ⅲ ひとがつながる」における実施方針を中心に、公園の管理運営の視点から整理します。

## ◆グリーンプラン 2035 の実施方針とパークマネジメントガイドラインでの対応関係



### (3) ガイドライン改定の背景と目的

公園を取り巻く社会は、ここ数年で大きく変わりました。少子高齢化が進み、ライフスタイルも多様化しています。また、国からも「公園をもっと自由に、楽しく使いこなそう」という新しい提案がなされています。

こうした変化に対応し、公園が本来持つ多様な機能（憩い、交流、防災、健康づくり、ウェルビーイングの向上など）をこれまで以上に引き出すことをめざし、このガイドラインを改定します。重点を置くポイントは以下の6つです。

#### ◆重点を置くポイント

グリーンインフラとしての 保全・利活用	公園が持つ防災、環境、景観などの機能を、地域課題の解決に戦略的に活用します。
居心地が良く、誰もが安心・ 安全で、快適に過ごせる空 間づくり	施設の老朽化対策はもちろん、誰もが自分らしく快適に過ごせる、安全・安心な空間をつくります。
利用ルールの弾力化	一律の規制を見直し、公園ごとの実態やニーズに応じた柔軟なルールの設定を進めます。
担い手の拡大と共創	行政だけでなく、区民、事業者など多様な主体が参画し、共に公園をつくり育てる「共創」を進めます。
自主性・自律性の向上	公民連携により、民間事業者のノウハウや活力を活かした、質の高いサービスやにぎわい創出をめざします。
公園DXの推進	デジタル技術を活用し、区民への魅力的な情報発信や、効率的で質の高い管理運営を実現します。

6つのポイントは国土交通省の「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言」での都市公園新時代へ向けた7つの取組のうちの6つに対応しています。（P23をご参照ください）

## 2 パークマネジメントの基本理念

ガイドライン改定のポイントを踏まえ、いたばしパークマネジメントガイドラインの基本理念を以下のようにします。

### 基本 理念

みんなでつくる、ひとをつなぐ公園  
～公園を活かし、ひとをつなぎ、共にはぐくむ～

前パークマネジメントガイドラインの理念には協働、公園の特性に応じ、ポテンシャルをさらに発揮させるための概念を示しており、この施策である公園の整備改修や一律なルールの見直しのほか、公園を協働で運営する取組などは、引き続きグリーンプラン 2035 で掲げた将来像の実現に不可欠なものです。

グリーンプラン 2035 では、将来像実現のための共通視点のひとつとして、「多様な主体が担い手となった連携・協働による取組推進」を掲げており、今後も前パークマネジメントガイドラインで示した取組を含め、地域に暮らすすべての人や様々な団体、関係機関や板橋区など、まちに関わるあらゆる主体が連携・協働しながら継続的に取組む必要があります。

このことから、本パークマネジメントガイドラインでは、前パークマネジメントガイドラインの内容を踏襲するとともに、国土交通省の提言でも示される公園の利活用の推進や共創の考え方を踏まえ、副題として「～公園を活かし、ひとをつなぎ、共にはぐくむ～」を加え、各主体と連携・協働しながら引き続き、将来像の実現のために取組んでいきます。

### 公園を活かし

公園は、区民にとってかけがえのない「まちの資産（都市アセット）」です。レクリエーション、憩い、防災、環境学習、生物多様性の保全、気候変動への適応といった多様な機能とポテンシャルを最大限に「活かし」、グリーンインフラとして、持続可能で魅力ある都市づくりに貢献します。

### ひとをつなぎ

公園は、世代や立場を超えた多様な人々が出会い、交流する場です。公園を通じて人と人、人と地域、人と自然を「つなぎ」、地域コミュニティの活性化や新たな絆の醸成を促し、誰もが孤立することなく安心して暮らせる社会の実現に寄与します。

### 共にはぐくむ

公園は、行政だけのものではなく、区民、事業者、地域団体、NPOなど、多様な主体が関わり合い、「共に育て、共に創る」大切な空間です。協働の4ステップ（知る・学ぶ・行う・伝える）を推進し、多様な主体がそれぞれの立場で主体的に関わることで、公園への愛着を深め、その価値を未来へとはぐくんでいきます。



### 3

## パークマネジメントの目標と実施方針

基本理念に基づいて、前パークマネジメントマネジメントの2つの目標を踏襲し、実施方針を「第4章 いたばしグリーンプラン 2035」で示した実施方針と整合するよう設定します。

#### 基本理念

**みんなでつくる、  
ひとをつなぐ公園**  
～公園を活かし、ひとをつなぎ、  
共にはぐくむ～

- 地域、民間などの活力を活用した公園運営、区民の声を反映させた柔軟な公園の使い方について整理を行っていき、『みんなでつくる、ひとをつなぐ公園』をめざします

#### 目標1

#### みんなで集える公園をつくります

- -居心地が良く、誰もが安心・安全で、  
快適に過ごせる空間づくり-  
公園が、誰もが気軽に訪れ、多様な交流が生まれる地域の魅力的な拠点となることをめざします。
- -担い手の拡大と共創-  
みどりと「ふれあう」「学ぶ」機会に加え、公園を共にはぐくむ運営に「活動」として参加し、多様な主体と「連携」する機会を創出することで、地域への愛着と豊かなライフスタイルをはぐくみます。

#### 目標2

#### いろいろなことができる公園を作ります

- -自主性・自律性の向上-  
公民連携により新たなにぎわいを創出し、誰もが居心地の良い、暮らしを豊かにする場所となることをめざします。
- -居心地が良く、誰もが安心・安全で、  
快適に過ごせる空間づくり-  
施設の計画的な維持管理やユニバーサルデザインの視点を取り入れた居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくりを図ります。
- -利用ルールの弾力化-  
柔軟なルールで多様な活動を可能にし、それぞれの公園が持つ魅力を引き出します。
- -グリーンインフラとしての保全・利活用-  
公園が持つ防災、環境、景観などの多様な機能を、地域課題の解決に活かします。

実施方針

都市の拠点となるみどりの創出

—魅力的で快適なみどりの拠点の創出により、  
愛着をはぐくみつなぐまちを実現します—

みどりと関わるライフスタイルの創出と醸成

—みどりと関係をはぐくむ  
「ふれあう機会」「学ぶ機会」  
「活動する機会」「連携する機会」を創出します—

新たな担い手の創出

—“ひと”と“ひと”のつながりでみどりへの取組の推進と新たな価値を創出します—

DXによるみどりの機能の発揮

実施方針

まちなかに広げるみどりの創出

—公民連携によるまちなかのみどりの創出により、  
居心地のよいまちを実現します—

暮らしを支える安心・安全の創出

—持続可能で安心・安全なまちをみどりで創出します—

みどりをみんなで使いこなす

—みどりの空間のより柔軟な活用により、  
みどりの魅力を引き出します—

## 4

## 公園種別ごとのマネジメントの方針

本ガイドラインは、板橋区が管理を行う公園、緑道、緑地、遊び場などを対象とします。これらの公園等は、都市公園法に基づく分類や設置目的、規模、利用特性などにより、多様な種類に分けられます。それぞれの類型が持つ特性や期待される役割を理解し、それに応じたきめ細かなマネジメントを行っていきます。

## (1) 板橋区における公園等の分類

区内には計 394 箇所、154.87 h a の区立の都市公園等（都市公園法に基づく公園の他に市民緑地、緑地広場など公園に準ずる施設を含みます）が整備されています。このうち、326 箇所（82.4%）が街区公園であり、規模の小さい公園の割合が多くなっています。

## ◆都市公園法に基づく公園の設置状況

種別	内容	設置数	面積(h a)
街区公園	主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、面積 0.25 h a を標準として設置	326	48.6
近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、面積は 2 h a を標準として設置	9	17.5
運動公園	都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で、面積 15～75 h a を標準として設置（小豆沢公園）	1	7.0
特殊公園	風致公園、動植物公園、歴史公園、墓園等特殊な公園で、その目的に則し配置する。そのうち動植物公園は、都市住民の緑化意識の高揚と植栽知識の普及等を図り、都市緑化の推進に資することを目的とする公園（赤塚植物園）	1	1.2
都市緑地	主として都市の自然環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられる緑地で、面積 0.1 h a 以上を標準として設置	3	67.8
都市林	主として動植物の生息地又は生育地である樹林地などの保護や都市の良好な自然的環境を形成することを目的として設置	2	0.2
合計		342	142.3

令和 7（2025）年 4 月 1 日現在

※各面積は四捨五入処理をしているため、合計と一致しない場合がある

◆公園に準ずる施設の設置状況

種別	内容	設置数	面積(ha)
市民緑地	都市緑地保全法に基づき、土地所有者との土地使用貸借契約により、板橋区が表面管理を行う樹林地等又は植樹などによる良好な緑地	0	0.0
緑地広場	板橋区大規模建築物等指導要綱に基づき、土地所有者との土地使用貸借契約により、板橋区が表面管理を行うもの	10	0.8
遊び場	都市公園以外の遊び場の提供を目的として、土地所有者との土地使用貸借契約により、板橋区が表面管理を行うもの	10	1.0
ポケットパーク	主として市街地における都市景観の向上、防災対策、休憩等の利用に供する小規模な広場等で板橋区が所有し管理するもの	11	0.4
合計		31	2.1

令和7（2025）年4月1日現在

※各面積は四捨五入処理をしているため、合計と一致しない場合がある

◆その他施設の設置状況

種別	内容	設置数	面積(ha)
緑道	公共溝渠（東京都板橋区公共溝渠管理条例により管理）や河川区域の一部を遊歩道（緑道）として整備したもの	10	10.1
その他	公園予定地など	7	0.3
合計		17	10.4

令和7（2025）年4月1日現在

※各面積は四捨五入処理をしているため、合計と一致しない場合がある



## (2) 各類型のマネジメントの方針

それぞれの公園等の類型について、パークマネジメントにおける主要な視点を以下に示します。

### 1. 街区公園（児童遊園を含む）～日常生活に最も身近なみどりの空間～



街区公園（西台公園）

#### ■街区公園（児童遊園を含む）のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1	居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくり	・遊具の安全点検・更新を徹底するとともに、誰もが安心・安全で快適に利用できるよう日常的な安全管理を行います。
目標1	担い手の拡大と共創	・地域住民（公園愛護会、花づくりボランティア等）との協働による日常的な清掃・美化活動や見守りを推進し、地域ぐるみで公園をはぐくむ体制を支援することで、みどりとの豊かなライフスタイルをはぐくみます。
目標2	利用ルールの弾力化	・公園ごとの利用実態に応じたボール遊びなどのルールの緩和を検討することで、多様な活動による公園の魅力を引き出します。
目標2	グリーンインフラとしての保全・利活用	・公園や緑地、街路樹の樹木について、周辺状況に応じて景観や緑陰などに配慮した維持管理を行うことにより、グリーンインフラとしての機能を発揮させます。

## 2. 近隣公園 ～地域の拠点となる公園～



近隣公園（東板橋公園）

### ■近隣公園のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1	居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくり	・多様な利用ニーズに応える施設の維持管理と計画的な機能更新を図り、安心・安全で快適な環境を提供します。
目標1	担い手の拡大と共創	・指定管理者やボランティアなど多様な主体と連携し、公園運営やイベント開催することで、みどりと豊かなライフスタイルをはぐくみます。
目標2	自主性・自律性の向上	・指定管理者制度の適切な運用やPark-PFIの活用検討により、民間事業者のノウハウや創意工夫を活かした質の高いサービス提供やにぎわい創出を促進します。また、公民連携手法によるカフェやレストラン等の導入も検討し、公園の魅力と利便性を高めます
目標2	グリーンインフラとしての保全・利活用	・地域のヒートアイランド現象を緩和する緑の拠点として、グリーンインフラ機能を計画的に維持・向上させます。
目標2	公園DXの推進	・イベント情報や施設の利用案内などをウェブサイトやSNSで効果的に発信し、広い世代の利用者層への情報提供と利用促進を図ります。

### 3. 運動公園（小豆沢公園） ～本格的なスポーツや健康づくり活動の拠点～



運動公園（小豆沢公園）

#### ■運動公園（小豆沢公園）のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1	居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくり	・ 体育館やグラウンド等の各スポーツ施設について、専門的な維持管理と厳格な安全基準の遵守により、利用者が安心・安全で快適にスポーツを楽しめる環境整備を引き続き図っていきます。
目標2	自主性・自律性の向上	・ 指定管理者制度を活用し、専門的なノウハウによる効率的な施設運営と利用者サービスの向上を図っています。

## 4. 特殊公園（赤塚植物園） ～植物の収集・展示、自然観察、学習の場～



特殊公園（赤塚植物園）

### ■特殊公園（赤塚植物園）のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1 担い手の拡大と共創		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者制度の活用を基本としつつ、専門家・ボランティア団体との連携・協働を推進し、質の高い教育・解説プログラム（園内ガイド、講習会など）を提供することで、みどりとのつながりを創出します。</li> <li>・ 専門的な知識に基づき、植物の収集・育成・展示管理、園内施設の維持管理を行います。</li> </ul>
目標2 グリーンインフラとしての保全・利活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 板橋区における生物多様性保全の中核拠点として、また、グリーンインフラの重要性を学ぶ環境学習の場として、その価値を最大限に活用します。</li> </ul>
目標2 自主性・自律性の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主的な運営による季節ごとのイベント企画や積極的な広報活動を展開し、施設の魅力を高め、集客力の向上と自主的な運営をめざします。</li> </ul>



## 5. 都市緑地 ～緑の骨格をなす広大なオープンスペース～



都市緑地（高島平緑地）

### ■都市緑地のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1	居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくり	・ 広大な空間を誰もが安心・安全で快適に利用できるよう、園路の安全確保、夜間照明の適切な配置、定期的な巡回などを通じて、安全で快適な利用環境を維持します。
目標1	担い手の拡大と共創	・ 地域の環境を守り育てる主体としての、近隣住民や活動団体、企業等と連携したイベントの実施により、みどりとの豊かなライフスタイルをはぐくみます。
目標2	グリーンインフラとしての保全・利活用	・ 生態系のネットワークや防災空間、良好な景観形成の核として、グリーンインフラの機能発揮のために、保全・活用を図ります。
目標2	自主性・自律性の向上	・ 荒川戸田橋緑地など、にぎわいが期待でき利活用のポテンシャルが高い空間については、民間との連携により地域のにぎわいや魅力向上に資する機能の導入を検討し、その運営主体が自主的に価値向上に取り組める環境づくりを支援します。
目標2	公園DXの推進	・ 位置情報などによる利用実態に基づく事業検討のほか、緑地が持つ環境機能（防災、生物多様性等）をデジタルツールにより情報発信し、区民の理解と関心を深めます。

## 6. 都市林 ～動植物の生息地となる樹林地～



都市林（成増四丁目新田の森）

### ■都市林のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1	居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくり	・ 安心・安全で快適に自然とふれあえるよう、園路や階段等の安全点検を徹底し、危険木の適切な管理を行います。また、過度な照明設置は避け、自然環境と安全性のバランスに配慮します。
目標1	担い手の拡大と共創	・ 樹林地の生態系を守り育てるため、環境団体や専門家、地域住民と連携した保全活動（外来種駆除、下草刈り、自然環境調査等）を計画的に実施することで、みどりとの豊かなライフスタイルをはぐくみます。
目標2	グリーンインフラとしての保全・利活用	・ 水源涵養や土砂流出抑制、生物のサンクチュアリ（聖域）として、最も重要なグリーンインフラの一つと位置づけ、その環境機能を最優先に保全します。

## 7. 公園に準ずる施設（市民緑地、緑地広場、遊び場、ポケットパーク） ～生活空間に密着した小規模な広場～



遊び場（双葉さくらプチガーデン）

### ■公園に準ずる施設（市民緑地、緑地広場、遊び場、ポケットパーク）のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1	居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくり	・小規模ながらも安心・安全で快適な空間を確保します。
目標1	担い手の拡大と共創	・清掃や草刈りなど、地域住民やボランティア団体との協定や協力に基づく維持管理を推進することで、みどりとの豊かなライフスタイルをはぐくみます。



## 8. その他（緑道） ～人々の健康づくりや憩いの場となる帯状の空間～



緑道（石神井川緑道）

### ■その他（緑道）のマネジメントの方針

貢献する 目標	対応する重点ポイント	マネジメントの方針
目標1	居心地が良く、誰もが安心・安全で、快適に過ごせる空間づくり	・まちとまちをつなぐ、安心・安全で快適な環境整備（路面管理、案内サインの整備、植栽管理）に努めるとともに、都市の緑地景観を維持します。
目標1	担い手の拡大と共創	・沿道の地域住民や団体との連携を強化し、清掃美化活動や、緑道の魅力を発信する活動を支援することで、みどりとの豊かなライフスタイルをはぐくみます。





## 第6章



### いたばしグリーンプラン 2035 第1期実施計画

- 1 第1期実施計画について
- 2 実施する施策

# 1 第1期実施計画について

## (1) 第1期実施計画の位置づけ

本実施計画は、「いたばしグリーンプラン 2035」（以下「本計画」という。）に掲げる将来像「“ひと”と“みどり”の共生でウェルビーイングが叶うまち “いたばし”」の実現に向け、計画期間（令和8（2026）年度～令和17（2035）年度）のうち、令和8（2026）年度から令和10（2028）年度までの3年間における具体的な取組内容を示すものです。なお、ここでは、第3章「(3) 計画全体を通じた推進についての課題（P45）」の3つ目である事業量が不明確であることへの対応として、各施策の事業量を明確にしています。

本計画の施策を着実に推進し、実効性を高めることを目的とします。

## (2) 計画期間

令和8（2026）年度から令和10（2028）年度までの3年間とします。

なお、社会経済状況の変化や事業の進捗状況等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

### (3) 実施する施策

本計画に定める3つの基本方針、12の目標に基づく29の施策について、第1期（令和8年度～令和10年度）に実施する具体的な事業を対象とします。

基本方針	実施方針（目標）	施策
Ⅰ 「みらいが つながる」	1 緑の資産の保全と 継承	01 樹林地の保全と継承
		02 歴史ある大径木等の保全
		03 板橋らしさを代表する緑の景観の保全と保全
	2 農のみどりの保全 と活用	04 農地の保全と継承
		05 農業の保全と継承
		06 未来へつなげる農作物の活用
	3 湧水の保全とうる おいのある水辺空 間の創出	07 親しめる水辺づくり
		08 湧水の保全
	4 生物多様性の向上 による生態系の保 全と再生	09 自然環境実態調査の実施
		10 エコロジカルネットワークの形成
Ⅱ 「まちが つながる」	5 都市の拠点となる みどりの創出	11 まちづくりによるみどりの創出 ★
		12 公園改修・拡張による区内外のみんなが集う空間 の創出 ★
	6 拠点間を結ぶみど りの創出	13 みどりの回遊性の創出
		14 歩きたくなるまちに向けた魅力発信
	7 まちなかに広げる みどりの創出	15 街並みの緑化推進
		16 公園の新設・改修による地域みんなが集う空間 の創出 ★
		17 公園施設の改修 ★
		18 学校のみどりの保全と活用
	8 みどりによる安 心・安全の創出	19 森林環境譲与税の活用
		20 安心・安全なまちへ向けたみどりの活用 ★
Ⅲ 「ひとが つながる」	9 みどりをみんなで 使いこなす	21 柔軟なルールの検討 ★
		22 みんなのやりたいを実現させる仕組みづくり ★
	10 みどりと関わるラ イフスタイルの創 出と醸成	23 みどりとふれあう機会づくり ★
		24 みどりを学ぶ機会づくり ★
		25 みどりと活動する機会づくり ★
		26 みどりで連携する機会づくり ★
	11 新たな担い手の 創出	27 みどりと人をつなぐ仕組みづくり ★
横断的施策	12 DXによるみどり の機能の発揮	28 デジタルツールの活用 ★
		29 E B P M(根拠に基づく政策立案)の実施 ★

★：パークマネジメントガイドラインに関する施策



## 2

## 実施する施策

## 基本方針Ⅰ みらいがつながる

## 実施方針1 緑の資産の保全と継承

## 施策01 樹林地の保全と継承

<p>施策の概要</p>	<p>- レガシーとなるみどりを守る、みどりの魅力を更に引き出す -</p> <p>民有地における樹林地について、用地取得のほか、管理費助成による維持管理の負担軽減、国や都への相続税の優遇要望により民有樹林地の保全を行います。</p> <p>公有地の樹林地については、適切な維持管理により樹林地の持つ「存在価値」「利用価値」を向上させます。</p> <p>このことにより、みどりの保全と質の向上につなげ、みどりの基盤形成を図ります。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3) (4)</p> <p>土木部 南部・北部土木サービスセンター (4)</p>
<p>関係事業</p>	<p>調整中</p>

## ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 公有地化による 緑の保全と継承				
(2) 税制改正などの 国・都への要請				
(3) 保存樹林・ 竹林制度				
(4) 樹林地管理計画 に基づく樹林地 管理				

実施方針1 緑の資産の保全と継承

施策02 歴史ある大径木等の保全

<p>施策の概要</p>	<p>- レガシーとなるみどりを守る、みどりの魅力を更に引き出す -</p> <p>民有地における地域の良い景観形成や文化財的価値のある樹木、生垣に対して各種保存制度を適用し、所有者に対して管理費等の助成を行います。これにより、民有地の緑を保全することで、まちなかの骨格となる緑の保全につなげます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (3) (4) 都市整備部 都市計画課 (2)</p>
<p>調整中</p>	

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)保存樹木制度の運用		調整中		
(2)景観重要樹木の指定				
(3)保存生垣制度の運用				
(4)名木・古木の保全				

## 実施方針1 緑の資産の保全と継承

### 施策03 板橋らしさを代表する緑の景観の保全

<p>施策の概要</p>	<p>- レガシーとなるみどりを守る、みどりの魅力を更に引き出す -</p> <p>板橋十景・石神井川桜並木の維持・保全とともにライトアップを行うことで、みどりの質の向上及び魅力を向上させます。また、景観形成重点地区の追加指定により、いたばしの強みである緑の景観の維持・形成を図ることで、板橋らしさを代表する緑のレガシーの継承とともにみどりのまちの魅力向上を図ります。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 南部土木サービスセンター (1) 産業経済部 くらしと観光課 (1) 都市整備部 都市計画課 (2) 土木部 土木計画・交通安全課 (3)</p>
	<p style="text-align: center; color: red;">調整中</p>

#### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)板橋十景・石神井川桜並木の魅力向上		調整中		
(2)景観形成重点地区の緑の保全と充実				
(3)石神井川通行空間保全構想				

## 実施方針2 農のみどりの保全と活用

### 施策04 農地の保全と継承

<p>施策の概要</p>	<p>- 農地と農業を守る、魅力ある都市農業を展開する -</p> <p>区の貴重な農地の保全と継承を行うために生産緑地地区の指定及び、農地減少対策を実施します。このことにより、いたばしのレガシーである農を次の世代に継承し、みどりとふれあう場の基盤形成を図ります。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>産業経済部 赤塚支所 (1) (2) (3) (4) 都市整備部 都市計画課 (1) 土木部 みどりと公園課 (2) (5)</p>
<p>取組</p>	<p>調整中</p>



◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和 8 年度 (2026)	令和 9 年度 (2027)	令和 10 年度 (2028)
(1)生産緑地地区 /特定生産緑 地の指定及び 維持				
(2)農のみどり保 全重点地区に おける事業推 進				
(3)農地保全のた めの賃貸借				
(4)区民農園の運 営開始				
(5)公園内における農業スペースの整備				
板橋公園（交通 公園）の再整備				
高島平緑地（高 島平九丁目地 区）の再整備				

## 実施方針2 農のみどりの保全と活用

### 施策05 農業の保全と継承

<p>施策の概要</p>	<p>- 農地と農業を守る、魅力ある都市農業を展開する -</p> <p>農地やそこで生産された農産物を通じた、農とふれあう場や機会の保全及び創出と、農業に従事する人材の育成に取り組むことで、区内における農業の魅力を広く啓発し、継続的な都市農業の発展を実現します。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) 産業経済部 赤塚支所 (2) (3) (4) (5)</p>
<p></p>	<p style="text-align: center; color: red;">調整中</p>

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和 8 年度 (2026)	令和 9 年度 (2027)	令和 10 年度 (2028)
(1)公園内における農業スペースの整備（再掲）				
板橋公園（交通公園）の再整備		調整中		
高島平緑地（高島平九丁目地区）の再整備				
(2)区民農園の運営・開設(再掲)				
(3)農業体験農園の運営、農のイベントの実施、板橋ふれあい農園会の活動				
(4)農業体験学校の運営、農業スキル育成講習の運営				
(5)農のサポーターの活動の運営				

## 実施方針2 農のみどりの保全と活用

### 施策06 未来へつなげる農作物の活用

施策の概要	- 農地と農業を守る、魅力ある都市農業を展開する -
	農業経営に係る相談・支援機能を持つネットワークを継続するとともに、農家の用地取得や直売所の開設費助成により区内産野菜の地産地消を増やし、農業への理解を促すことで、区の農への愛着を高めます。

所管部・課 ※( )は対象事業	産業経済部 赤塚支所 (1) (2)
--------------------	--------------------

調整中	
-----	--

#### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 農業経営支援 のための都と 連携したネッ トワーク継続		調整中		
(2) 農業者支援の 補助事業				



### 実施方針3 湧水の保全とうるおいある水辺空間の創出

## 施策07 親しめる水辺づくり

施策の概要	- 親しめる水辺空間を創出する -
	水辺や親水公園をはじめとした親水スポットの魅力向上に取組、水辺空間がより活用され、区民に親しまれるような空間を創出します。このことで、みどりと関わりを持つきっかけとなる機会を持たせることで、みどりの「質の向上」につなげるとともに、みどりと関係創出に取組ます。また、みどりの活動を通して、みどりへの愛着をはぐくむことで、みどりを守る意識を醸成させ、「みどりの保全」につなげます。

所管部・課 ※( )は対象事業	土木部 みどりと公園課 (1) (3) 土木部 土木計画・交通安全課 (1) (2) (4) 土木部 かわまちづくり計画担当課 (1) (2)
--------------------	---

調整中	
-----	--

#### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 水辺空間の魅力向上	調整中			
(2) 水辺空間の魅力向上による賑わい創出				
(3) 親水公園の活用				
(4) 石神井川通行空間保全構想				

## 実施方針3 湧水の保全とおいしい水辺空間の創出

### 施策08 湧水の保全

<p>施策の概要</p>	<p>- 潤いの源である崖線の湧水を守る -</p> <p>湧水の保全が必要なエリアである「湧水保全地域」の指定を維持し、区内の健全な水循環を維持するとともに、雨水浸透施設の積極的な設置促進などにより湧水涵養の取組を進めます。また、湧水を起点としたガイドツアーを開催することにより、水循環の保全の重要性を啓発することで、区民の湧水をはじめとしたみどりの保全意識を高め、着実な湧水の保全を図ります。なお、「施策01 樹林地の保全と継承」「施策04 農地の保全と継承」により、地下水を涵養する機能を持つ樹林地・農地を保全し、水循環の健全化と安定的な水資源の確保を図ります。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>資源環境部 環境政策課 (1) (2) 土木部 みどりと公園課 (3) (4)</p>
	<p style="text-align: center; color: red;">調整中</p>

#### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 湧水保全地域の指定維持		調整中		
(2) 雨水涵養の取組				
(3) 湧水の活用促進				
(4) 樹林地・農地の保全推進における水源涵養機能の維持				

## 実施方針4 生物多様性の向上による生態系の保全と再生

### 施策09 自然環境実態調査の実施

<p>施策の概要</p>	<p>- 生物多様性を守る、みどりとの共生関係の基盤を築く -</p> <p>自然環境実態調査を通して、みどりの環境施策の効果測定を行い、みどりの保全と継承にかかわる施策の評価・課題の抽出・改善を行います。また、区民の協力を得ながら、区民参加型の自然環境調査を実施することで、継続的な区の自然環境の把握に努めるとともに、区民のみどりに対する意識醸成を図ります。このことにより、適切な評価にもとづく施策の実施を行うとともに、区内のみどりの評価を見える化することによる、みどりの魅力や価値を広め、みどりの保全への意識啓発を図ります。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>資源環境部 環境政策課 (1) (2) (3) (4) 土木部 みどりと公園課 (5)</p>
<p>関係部署</p>	<p>調整中</p>

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)河川生物調査				
(2)湧水保全地域 における湧水 の保全				
(3)河川・地下水 水質調査				
(4)生物多様性に 関する基礎調 査				
(5)緑地・樹木の 実態調査				

調整中

## 実施方針4 生物多様性の向上による生態系の保全と再生

### 施策10 エコロジカルネットワークの形成

施策の概要	- 生物多様性を守る、みどりとの共生関係の基盤を築く -
	みどりを生物の生息域の生育環境の視点から捉え、区特有の地形を活かした保全と質の向上のための環境整備を実施することで生物にとって住みよいみどりのネットワーク形成を行います。このことにより、みどりが持つ機能を向上させ、みどりとの共生基盤の保全と形成を図ります。

所管部・課 ※( )は対象事業	土木部 みどりと公園課 (1) (3) 資源環境部 環境政策課 (2) (4) 教育委員会事務局 新しい学校づくり課 (2)
--------------------	--

調整中	
-----	--

#### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)樹林地管理計画に基づく樹林地管理 (再掲)	調整中			
(2)ビオトープの保全				
(3)樹林地・農地・湧水の維持・保全によるみどりの機能発揮 (再掲)				
(4)外来生物への対応				
(5)まちづくりによるみどりの創出(再掲)				



## 基本方針Ⅱ まちがつながる

### 実施方針5 都市の拠点となるみどりの創出

### 施策11 まちづくりによるみどりの創出

パークマネジメントガイドライン目標1 みんなで集える公園をつくれます に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- 魅力的で快適なみどりの拠点を創出する、愛着をはぐくみつなぐまちを実現する-</p> <p>まちづくり事業における、拠点となる緑地整備をとおして、区内の新たな緑の創出を図ります。このことにより、日常的にみどりとつながる環境を創出し、地域のにぎわいを生み出すとともに、みどりを通じて地域への愛着が向上し、区民満足度を高めます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>まちづくり推進室 まちづくり調整課 (1) まちづくり推進室 地区整備課 (1) まちづくり推進室 高島平まちづくり推進課 (2)</p>

調整中

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)まちづくり事業の公民連携によるみどりの空間整備				
大山町ピッコロ・スクエア周辺地区市街地再開発事業				
上板橋駅南口駅前東地区市街地再開発事業				
板橋駅周辺事業 (板橋口地区再開発)				
板橋駅周辺事業 (西口地区再開発)				
板橋駅周辺事業 (駅前広場再整備)				
(2)高島平プロムナードの整備				

実施方針5 都市の拠点となるみどりの創出

施策12 公園改修・拡張による区内外のみんなが集う空間の創出

パークマネジメントガイドライン目標1 みんなで集える公園をつくれます に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- 魅力的で快適なみどりの拠点を創出する、愛着をはぐくみつなぐまちを実現する-</p> <p>公民が連携した整備・運営を行う「板橋公園」や、近代化・産業遺産を活用した都内初となる「史跡公園」の整備など、まちの人の流れをかえる拠点としての公園の再整備を進めるとともに、新たな公園・緑地の設置や既存公園・緑地の拡張などによるみどりの創出とみどりの質の向上をめざします。</p> <p>このことにより、日常的にみどりとつながる環境を創出し、地域のにぎわいを生み出すとともに、みどりによる地域への愛着を向上させ、区民満足度を高めます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3) (4) 教育委員会事務局 史跡公園担当課 (2) 政策経営部 政策企画課 (3)</p>
	<p>調整中</p>

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)板橋公園（交通公園）の再整備		調整中		
(2)板橋区史跡公園（仮称）の設計・整備				
(3)常盤台公園の設計・再整備				
(4)高島平緑地（高島平九丁目地区）の再整備（再掲）				

実施方針6 拠点間を結ぶみどりの創出

施策13 みどりの回遊性の創出

<p>施策の概要</p>	<p>- 魅力的な拠点を結ぶみどりの道を創出する -</p> <p>まちづくり事業など、公民連携によるみどりの創出により、回遊性の創出を図ります。また、みどりの維持管理の質を向上させるため、樹木管理に関する職員研修を継続的に実施するとともに、街路樹のほか公園緑道の樹木点検や診断により、適切な維持管理に向け取組、みどりの質を高めます。</p> <p>これにより、みどりと親しめる基盤の構築を図ります。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>まちづくり推進室 まちづくり調整課 (1) まちづくり推進室 地区整備課 (1) 土木部 みどりと公園課 (2) (6) (7) まちづくり推進室 高島平まちづくり推進課 (3) 土木部 南部・北部土木サービスセンター (4) (5)</p>
	<p style="text-align: center; color: red;">調整中</p>



◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)公民連携のみどり	市民の創出による同遊性の向上			
大山町ピッコロ・スクエア周辺地区市街地再開発事業				
上板橋駅南口駅前東地区市街地再開発事業				
板橋駅周辺事業 (駅前広場再整備)				
(2)界わい緑化による緑化の推進(再掲)				
(3)高島平プロムナードの整備				
(4)街路樹診断による質の向上				
(5)公園緑道の樹木診断による質の向上				
(6)樹木管理に関する技術の向上				
(7)樹冠被覆率拡大のための手法検討				

調整中

実施方針6 拠点間を結ぶみどりの創出

施策14 歩きたくなるまちに向けた魅力発信

施策の概要	- 歩きたくなるまちを実現する -
	区の強みである「みどり」の魅力を発信することで、自然にみどりとつながりたいと思える機会を創出し、日常生活のなかにみどりを取り入れるきっかけづくりと、その継続を図ります。これにより、生活を豊かにするとともに、地域の活性化や区民満足度の向上を図ります。
所管部・課 ※( )は対象事業	土木部 みどりと公園課 (1) (2) 産業経済部 くらしと観光課 (1) (2)
調整中	

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 様々なメディアを活用した 情報発信	調整中			
(2) ガイドマップ による情報発信				

## 実施方針7 まちなかに広げるみどりの創出

### 施策15 街並みの緑化推進

<p>施策の概要</p>	<p>- 公民連携によるまちなかのみどりを創出する、居心地のよいまちを実現する -</p> <p>民有地の内、緑化指導をはじめとした緑化の推進により、新たな緑を創出すると共に、道路部分に面したみどりの配置により、まちなかで感じられるみどりを増やすことで、日常生活の中でのみどりとのかかわりとしにぎわいを創出し、区民満足度を向上させます。</p>
--------------	--

<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3) 資源環境部 環境政策課 (4)</p>
----------------------------	--

<p style="text-align: center; color: red; font-size: 24px;">調整中</p>	
---	--

#### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 界わい緑化による緑化の推進(再掲)		<p style="text-align: center; color: red; font-size: 24px;">調整中</p>		
(2) 緑化推進地域の指定(界わい緑化に向けた指定)				
(3) 緑化指導による緑化の推進				
(4) 緑のカーテンの普及・啓発				

実施方針7 まちなかに広げるみどりの創出

施策16 公園の新設・改修による地域 みんなが集う空間の創出

パークマネジメントガイドライン目標2 いろいろなことができる公園を作ります に対応

施策の概要	- 公民連携によるまちなかのみどりを創出する、居心地のよいまちを実現する - 地域住民にとって身近な公園・緑地について、地域の実情やニーズ、利用者の視点に立ったユニバーサルデザインを捉えた、計画的な新設・改修整備を進めます。また、改修に伴い、樹冠拡大を見越した植栽の植替えや、裸地の芝生化など、みどりの創出・拡大に取り組めます。これにより、地域の誰もが使いやすい安心・安全で快適な公園・緑地とすることで、地域への愛着を向上させ区民満足度を高めるとともに、公園率、緑被率の向上をめざします。
所管部・課 ※( )は対象事業	土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3)
調整中	

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 大門東の森公園の整備（新設）	調整中			
(2) 四葉公園の改修整備				
(3) 高島平4丁目公園の改修整備				

## 施策17 公園施設の改修

パークマネジメントガイドライン目標2 いろいろなことができる公園を作ります に対応

施策の概要	<p>- 公民連携によるまちなかのみどりを創出する、居心地のよいまちを実現する -</p> <p>地域の実情やニーズ、利用者の視点に立ったユニバーサルデザインのほか、老朽度やトイレの配置状況、施設の利用状況などを捉えた「トイレの配置計画」、「遊具の長寿命化計画」に基づく計画的な公園施設の改修により、コスト抑制に努めるとともに、誰もが安心・安全で快適に利用できる居心地の良いみどりの環境を創出します。これにより、日常生活の中でみどりの機能が十分に発揮されることで、みどりととの関係創出による区民満足度の向上をめざします。</p>
-------	--

所管部・課 ※( )は対象事業	土木部 みどりと公園課 (1) (2)
--------------------	---------------------

事業内容	調整中
------	-----

### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 公園トイレの 改修整備		調整中		
(2) 公園遊具の改 修整備				



実施方針7 まちなかに広げるみどりの創出

施策18 学校のみどりの保全と活用

施策の概要	- 公民連携によるまちなかのみどりを創出する、居心地のよいまちを実現する - 教育環境における緑のカーテンの設置のほかビオトープや畑の保全と活用により、日常的な教育の場のみどりと関わる機会を創出し、小中学生のみどりとの関係創出・関係醸成を図ります。
-------	---

所管部・課 ※( )は対象事業	教育委員会事務局 新しい学校づくり課 (1) (2) (3) 資源環境部 環境政策課 (1) (2)
--------------------	---

調整中	
-----	--

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 緑のカーテン の普及・啓発 (再掲)	実施数	調整中	調整中	調整中
(2) ビオトープの 保全(再掲)	調整中			
(3) 畑の保全と運 用				

## 実施方針 8 暮らしを支える安心・安全の創出

### 施策 19 森林環境譲与税の活用推進

<p>施策の概要</p>	<p>- 持続可能で安心・安全なまちをみどりで創出する -</p> <p>みどりの質の向上のための樹林の維持管理や木材の活用事業などに対して、森林環境譲与税の活用を推進することにより、グリーンインフラの機能を最大限に発揮させます。このことを通して、みどりとの共生関係の基盤構築と、みどりへの意識向上を図り、みどりによる豊かな暮らしの実現で区民満足度を向上させます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>調整中</p>
<p>区民・事業者 などの役割 (みなさんへの お願いと、 期待されること)</p>	<p>調整中</p>
<p>協働による 取組</p>	

#### ◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 改築長寿命化 改修における 国産材の活用・学校施設 への導入		調整中		
(2) 公園・緑地の 樹林地整備				
(3) みどりへの意 識醸成のため の木育事業の 実施				
(4) 区の森維持管 理				

実施方針8 暮らしを支える安心・安全の創出

施策20 安心・安全なまちへ向けたみどりの活用

パークマネジメントガイドライン目標2 いろいろなことができる公園を作ります に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- 持続可能で安心・安全なまちをみどりで創出する -</p> <p>樹林地・農地の保全、新たな公園・緑地の整備などによる、ゼロカーボン、集中豪雨などの自然災害への対応のほか、犯罪の抑止効果となるパトロールや防犯カメラの設置をはじめとした、防犯への取組など、みどりの機能の向上・発揮により、みどりを通した安心・安全で快適なまちの実現をめざします。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 南部・北部土木サービスセンター (2) (3) (4) (5)</p>
	<p>調整中</p>

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 樹林地・農地・ みどりの施設 における水源 涵養機能の創 出・維持				
(2) 街路樹診断による質の 向上(再掲)				
(3) 公園緑道樹木診断によ る質の向上(再掲)				
(4) 街路樹の維持管理にお けるSNS通報システ ムの運用				
(5) 防犯への取組				

調整中

## 基本方針Ⅲ ひとがつながる

### 実施方針9 みどりをみんなで使いこなす

## 施策21 柔軟なルールを検討

パークマネジメントガイドライン目標2 いろいろなことができる公園をつくれます に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- みどりの空間をより柔軟に活用する、みどりの魅力を引き出す -</p> <p>これまでの公園の画一的な管理・運営を見直し、地域のニーズや実態に応じたルール策定や運用を行い、公園における「みんなのやりたいを叶える」ことで、公園運営への利用者の意識を高めるとともに、公園の魅力と価値を高め、みどりの区民満足度を向上させます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3)</p>
<p>其</p>	<p>調整中</p>



◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 利便施設の導入				
(2) 画一的な管理 の見直し				
(3) ルール検討のための実証実験				
高島平緑地(高島 平九丁目地区)の 再整備(再掲)				

実施方針9 みどりをみんなで使いこなす

施策 22 みんなのやりたいを実現させる仕組みづくり

パークマネジメントガイドライン目標2 いろいろなことができる公園をつくります に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- みどりの空間をより柔軟に活用する、みどりの魅力を引き出す -</p> <p>公園において、これまで行ってきた町会イベントの受入を継続するとともに、区民や事業者が企画するイベント活動について、受入体制の仕組みを構築し、自主的な活動を支援することで、みどりの空間利用の活性化を図り、地域のみどりへの愛着を深め、みどりの区民満足度を向上させます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3)</p>

調整中

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和 8 年度 (2026)	令和 9 年度 (2027)	令和 10 年度 (2028)
(1) 区民提案による企画支援の仕組み検討（みどりとひとをつなぐ仕組みの導入（再掲））		調整中		
(2) 町会などが企画するイベントの受入体制の充実				
(3) 仕組み検討のための実証実験				
高島平緑地(高島平九丁目地区)の再整備(再掲)		調整中		

実施方針 10 みどりと関わるライフスタイルの創出と醸成

施策 23 みどりとふれあう機会づくり

パークマネジメントガイドライン目標1 みんなで集える公園をつくります に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- 「ふれあう機会」「学ぶ機会」「活動する機会」「連携する機会」を創出する -</p> <p>子どもから高齢者までを対象とした、みどりにかかわるイベントを年間を通じて実施することにより、継続的にみどりとつながる「知る」機会の創出を図ります。また、SNS等を用いた継続的かつ積極的な情報発信(施策 28)により、更なるイベントへの集客を行い、みどりと関係創出及びその継続を図ります。これにより、みどりに関わる関係人口を増加させ、板橋区全体でみどりに関わる満足度を高めるとともに、みどりにへの意識を高めることで、みどりの保全と創出への機運醸成につなげます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (4) (5) (7) 産業経済部 赤塚支所 (6)</p>

調整中

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) グリーンフェスタの開催				
(2) 緑のガイドツアーの開催				
(3) みどりの街歩きの魅力向上				
(4) みどりを楽しむ機運の醸成				
(5) ZOOパークフェスタの開催				
(6) 農業まつりの開催				
(7) 公園内における農業スペースの整備 高島平緑地 (高島平九丁目地区)の再整備(再掲)				

調整中



実施方針 10 みどりと関わるライフスタイルの創出と醸成

施策 24 みどりを学ぶ機会づくり

パークマネジメントガイドライン目標1 みんなで集える公園をつくります に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- 「ふれあう機会」「学ぶ機会」「活動する機会」「連携する機会」を創出する -</p> <p>子どもから高齢者までを対象としたイベント参加者や、みどりに興味のある方の次の「学ぶ」ステップとして、農の理解を深める農体験や農業学校における人材育成、みどりへの理解を深める講習会や展示会の開催などをおして、みどりを学ぶ機会の創出を図り、区民が自らみどりについて学ぶ意識の向上を後押しすることで、みどりが生活のなかでより身近で、欠かせない存在となるみどりとの関係醸成を図り、みどりの保全と創出への機運醸成につなげます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (3) (5) 産業経済部 赤塚支所 (2) 資源環境部 環境政策課 (4) 教育委員会事務局 指導室(4)</p>
<p style="text-align: center;">調整中</p>	

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1) 公園内における農業スペースの整備 高島平緑地 (高島平九丁目地区)の再整備(再掲)		調整中		
(2) 農業体験学校の運営、農業スキル育成講習の運営(再掲)				
(3) 赤塚植物園の緑の講習会・展示会・農業体験の開催				
(4) 環境教育・環境学習のイベント・講座等の開催				
(5) みどりのビギナーズ講習会などの開催				

実施方針 10 みどりと関わるライフスタイルの創出と醸成

施策 25 みどりと活動する機会づくり

パークマネジメントガイドライン目標1 みんなで集える公園をつくります に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- 「ふれあう機会」「学ぶ機会」「活動する機会」「連携する機会」を創出する -</p> <p>子どもから高齢者までを対象とした、みどりと関わるきっかけや学びの、次のステップである、みどりに対して「行動する(実践する)」機会として、農作物や花づくり、緑地管理の場、動物の世話や接客の場の提供、ボランティアとの各種イベントの共同開催などの行動機会の場を創出します。このことにより、自らがみどりの課題解決に対して働きかける意識を向上させ、区民のみどりへの愛着をより強固なものにすることで、みどりの保全と創出への機運醸成につなげます。また、この活動を通して、子どもをはじめとした居場所づくりを進めます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (3) (6) (8) (9) (11) 土木部 南部・北部土木サービスセンター (4) (5) (7) 産業経済部 赤塚支所 (2) (10)</p>
	<p style="text-align: center; color: red;">調整中</p>

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)公園内における農業スペースの整備 高島平緑地(高島平九丁目地区)の再整備(再掲)		調整中		
(2)区民農園の開設(再掲)				
(3)緑化推進機材の貸出し				
(4)花づくりボランティア活動				
(5)地域がつくる公園制度による美化活動				
(6)板橋区の森維持管理(再掲)				
(7)公園刈り込みボランティアによる緑の手入れ				
(8)こども動物クラブ(本園)				
(9)赤塚植物園版こども動物クラブ				
(10)農業体験農園の運営、農のイベントの実施、板橋ふれあい農園会の活動におけるボランティアとの連携				
(11)区の花ニリンソウの保全とPRにおけるボランティアとの連携				

実施方針 10 みどりと関わるライフスタイルの創出と醸成

施策 26 みどりで連携する機会づくり

パークマネジメントガイドライン目標1 みんなで集える公園をつくります に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- 「ふれあう機会」「学ぶ機会」「活動する機会」「連携する機会」を創出する - 協働活動の課題である活動者の高齢化や固定化、孤立した活動、活動意欲の低下に対して、「伝える(仲間を増やす)」ステップとして、活動主体や団体への情報発信支援や講習会などの実施により、新たな活動者の参入や、さまざまな活動主体や団体などの交流・連携、これによる活動意欲の向上を図り、持続可能な協働活動を実現し、ひととみどりととの共生関係を構築します。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 南部・北部土木サービスセンター (1) (2) 土木部 みどりと公園課 (2) (3) (4)</p>

調整中



◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)会報誌の発行 による情報発信				
(2)SNSを活用 した活動者の 情報発信支援				
(3)SDGsプラ ットフォーム による情報発信				
(4)協働講習会の 実施				

調整中

実施方針 11 新たな担い手の創出

施策 27 みどりと人をつなぐ仕組みづくり

パークマネジメントガイドライン目標1 みんなで集える公園をつくります に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- “ひと”と“ひと”のつながりでみどりへの取組の推進と新たな価値を創出する - 樹林や農地、河川、まちなかのみどりなど、さまざまなみどりの空間における「知る（興味を持つ）」「学ぶ（知識・技術を得る）」「行う（実践する）」「伝える（仲間を増やす）」を循環させる仕組みを構築し、地域と民間などの活力を活かしたひととみどりのつながりを持続的な活動とすることで、みどりとの関係創出・関係醸成をみんなでつなげていき、ひととみどりとの共生関係を築きます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3) (4) (5)</p>
<p>区 カ ( 期</p>	<p style="text-align: center; color: red;">調整中</p>
<p>時</p>	

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)みどりとひと をつなぐ仕組 みの導入				
(2)公民連携の取 組				
(3)高島平緑地 (高島平九丁 目地区)の再 整備(再掲)				
(4)職員向け協働 研修の実施				
(5)界わい緑化によ る接道部緑化の 推進(再掲)				
			、工事完成	、工事完成

## 横断的施策：DXによるみどりの機能の発揮

### 実施方針 12 DXによるみどりの機能の発揮

### 施策 28 デジタルツールの活用

パークマネジメントガイドライン目標2 いろいろなことができる公園をつくれます に対応

<p>施策の概要</p>	<p>- DXの推進により“ひと”と“みどり”をつなぐ -</p> <p>SNSをはじめとした多様な媒体を通じて、板橋のみどりやそれに関するイベント、取組について継続的かつ積極的に情報を発信し、区内外に広く周知することで継続的なみどりとの関係創出、関係醸成を図ります。また、これにより区のみどりの認知度を高めるとともに区の緑への愛着も深め、区のみどりの満足度を向上させます。</p> <p>また、みどり施設（街路樹など）の異常を区の点検・巡視以外の区民や施設利用者からのSNS通報により把握することで、施設の監視体制及び維持管理を充実させるとともに、区民・公園利用者のみどりへの意識と協働意識の向上及び安心・安全で快適なみどり施設の維持管理をとおした、みどりの区民満足度を向上させます。</p>
<p>所管部・課 ※( )は対象事業</p>	<p>土木部 みどりと公園課 (1) (2) (3) (4) 産業経済部 くらしと観光課 (2) 土木部 南部・北部土木サービスセンター (5)</p>

調整中

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)様々なメディアを活用した 情報発信				
(2)ガイドマップ による情報発信（再掲）				
(3)SNSを活用 した活動者の 情報発信支援 （再掲）				
(4)SDGsプラ ットフォーム による情報発信（再掲）				
(5)街路樹の維持 管理における SNS通報シ ステムの運用 （再掲）				

調整中



実施方針 12 DXによるみどりの機能の発揮

施策 29 EBPM（根拠に基づく政策立案）の実施

パークマネジメントガイドライン目標2 いろいろなことができる公園をつくります に対応

施策の概要	- DXの推進により“ひと”と“みどり”をつなぐ -
	公園・緑地の施設改修について、地域のニーズや利用実態、地域住民の年齢構成、地域課題・特色などに基づいた改修計画・方針による整備を実施することにより、効率的かつ透明性のあるみどり空間の整備を図ります。このことにより、的確な動向を捉えた公園整備を実施し、区民のみどりの満足度を向上させます。
所管部・課 ※( )は対象事業	土木部 みどりと公園課 (1) (2)
調整中	

◆第1期実施計画で実施する事業と年度別実施内容

事業	評価指標	年度別実施内容		
		令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
(1)公園トイレの 配置・改修計 画に基づく整 備	調整中			
(2)公園の利用実 態に基づく改 修				